

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター  
平成 26 年度に係る業務実績報告書

平成 27 年 6 月

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター

## 目次

1. 地方独立行政法人岡山市立総合医療センターの概要 . . . . . 1 頁
2. 全体状況 . . . . . 3 頁
3. 小項目別の自己評価 . . . . . 8 頁
4. 項目別の状況 . . . . . 5 6 頁

## 1. 地方独立行政法人岡山市立総合医療センターの概要

### (1) 現況（平成26年4月1日現在）

#### ① 法人名

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター

#### ② 本部の所在地

岡山市北区天瀬6番10号

#### ③ 役員の状況

役職名	氏名	備考
理事長	松本 健五	岡山市立市民病院長兼務
理事	槇野 博史	岡山大学理事 岡山大学病院長
	東 良平	独立行政法人国立病院機構岡山医療センター名誉院長
	正野 隆士	公益財団法人岡山市シルバー人材センター理事長
	池上 進	法人本部事務局長
	今城 健二	岡山市立市民病院副院長
	小野 まさ子	岡山市立市民病院副院長
監事	吉沢 徹	弁護士
	大倉 宏治	公認会計士・税理士

#### ④ 運営する病院

病院名	所在地	病床数
岡山市立市民病院	岡山市北区天瀬6番10号	405床 ・一般387床 ・結核病床12床 ・感染症病床6床
岡山市立せのお病院	岡山市南区妹尾850番地	60床 ・一般38床 ・地域包括ケア病床22床 (平成26年10月～)

#### ⑤ 職員数

区分	職員数
特別職	2人
正規職員	535人
嘱託職員	30人
再雇用職員	2人
非正規職員	227人
計	796人

※岡山市からの派遣職員を含む

※職員を兼ねる役員を含む

## ■ 基本的な目標等

地方独立行政法人岡山市立総合医療センターは、岡山市の医療政策として求められる救急医療、感染症医療、災害時における医療及び高度医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、岡山市内における医療水準の向上を図り、もって市民の生命と健康を守ることを目的とし、市民に必要とされる医療を確実に実施する。

また、柔軟で迅速な人材確保など、機動性・弾力性が高く、自律的な経営を実践するとともに市民へのより良い医療の提供と、より効果的・効率的な病院運営を行い、地域医療の推進のための重要な役割を担うことにより、岡山市長から指示された中期目標を達成する。

## ■ 基本理念

### 心技体

- ・心の通い合う医療の提供
- ・質の高い安全な医療の提供
- ・健全で自立した経営と働きやすい職場

## ■ 基本方針

### 【岡山市立市民病院】

私たちは、市民に信頼され、期待される病院であり続けるために、次のことを実践します。

### 1. 患者中心の医療

患者に対し十分な説明と同意のもとに医療を提供し、かつ、診療情報を積極的に公開し、患者の尊厳・権利を尊重する患者中心の全人的医療を行います。

### 2. 医療水準の向上

総合的医療機能を基盤に、高度・特殊・先駆的医療等を担い、さらに地域医療を担う医師の育成、医療従事者の研修の場としての役割を果たし、地域の医療水準の向上に努めます。

### 3. 安全な医療

患者に安心と信頼をもたらす医療を提供し、また、職員に希望と誇りを育み、充実して働きやすい職場環境を推進します。

### 4. 地域医療への貢献

地域の医療機関との連携を密にし、また、救急医療を積極的に推進し、市民に愛され信頼される地域の中核病院としての役割を果たします。

### 5. 健全経営の確保

自治体病院に期待される健康危機管理機能の強化等の公共性を確保するとともに、合理的かつ効率的な病院経営に努めることにより、健全で自立した経営基盤を確立します。

### 【せのお病院】

- ・医療を受ける人の立場に立ち、心のこもった医療を実践します。
- ・患者の権利を尊重し、満足のいく医療を行います。

- ・健全な病院経営に努め、良質な医療サービスを提供します。
- ・保険、福祉、医療の連携のもとに、安心して生活できる地域づくりを推進します。
- ・職員の医療人としての資質の向上に努めます。

## 2. 全体状況

### (1) 法人運営の総括

岡山市立市民病院（以下「市民病院」という。）と岡山市立せのお病院（以下「せのお病院」という。）は、平成26年4月1日に地方独立行政法人に移行、平成27年5月に新市民病院への移転という二段階のスタートを切る計画の下で動き始めた。

法人へ移行して初年度となる平成26年度は、岡山市から独立した法人として、理事会の設置、各種規程、要綱の制定、法人として独立した様々な事務の運用方針の整理を行った。定数条件の制約がなくなったことにより、これまで以上に迅速かつ弾力的な人材確保、人員配置の実現、市民病院、せのお病院の支払いの一本化、その他主たる取引銀行との契約、ファームバンキング、e-TAX、eL-TAX 運用開始をはじめとする経理事務の効率化や基本目標等を実現するための基盤整備を行った。

理事会は理事長以下7人で構成し、業務執行の適格性の検証を幅広い専門的な意見を反映しながら法人の各種施策

の実施について意思決定し、理事会の議決に沿った運営を行いつつ、現場の実態に即して理事長がリーダーシップを発揮しやすい運営環境を整備することにより運営の効率化を図った。

それらの内部統制と並行して着実に進めてきたのが、新市民病院の建築及び建築後の移転計画、移転を見据えた新人事体制、新たな委員会の設置等である。

また、市民病院、せのお病院を一元管理できるような効率のかつ持続的な運営を目指した法人本部を設置し、企画運営、経理、人事労務、給与計算・支払、新ICT構築部門を集約した。

市民病院としては、救急患者数、救急応需率、手術件数、逆紹介率、平均在院日数について平成26年度の目標値を達成した。対して、紹介率と病床稼働率が目標値に届かなかった。また、法人化前同様引き続き結核患者の受け入れを常時行い、二類感染症の受け入れを堅持、また、がん診療連携推進病院としてがん診療連携協議会の各部会に参加し、院内へフィードバックしている。さらに、脳卒中においては、IVR治療例が飛躍的に増加した。加えて地域医療支援病院として、地域の保健・医療・福祉情報の把握に努め、患者へ2人主治医制の周知を徹底し、地域の医療機関へ訪問等を行い、紹介・逆紹介の推進を図り、移転後の体制強化や連携強化に努めた。

せのお病院としては、救急応需率、紹介率、逆紹介率、平均在院日数が平成26年度の目標値に達成した。対して、救急患者数、手術件数、病床稼働率が目標値に届かなかった。また、周辺地域の中核病院として、近隣医療機関からの紹介患者受け入れや、近隣訪問看護ステーションとの連携で在宅支援を実践した。また、10月に地域包括ケア病床（22床）を開設した。

財政収支面においては、新病院建築に伴う負債額増により、平成27年度から岡山市長が選任する会計監査人の監査を受ける必要性が予想されるので、監事と会計監査人が連携を取れるように監事監査規程の改正を検討する。

## **（2）大項目ごとの特記事項**

### **第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置**

岡山ERに向けた人材確保、育成について、救急専門医においては、救急医療を行う土台はできており、新病院移転後の岡山ERでの救急専門医確保に向けての進歩はあったと手ごたえを感じている。仮に専門医増加が不十分な場合であっても、院内の各科専門医及び専修医が協力して救急医療を行える体制を整えるべく症例検討会、救急レクチャーを行った。トリアージナースにおいては、ウォークイン患者全例にトリアージを行う体制を維持することで経験

値を増やすように努め、トリアージの検証も行った。

インフルエンザ対策としては、新型インフルエンザは発症していないが鳥インフルエンザ発生時には殺処分に関与していた県職員等を受け入れる等、地域での中心的医療機関として対応した。

災害その他緊急時に医療提供を行う拠点機能としては、災害対策部会を発足し、チームとしてDMAT研修を受講し、災害拠点病院としての体制づくりの一環として医療資機材を購入し、また次年度には緊急車両を購入する予定である。

安心して子どもを産み育てられる周産期・小児医療を提供することについては、小児科常勤医師を新たに1名確保して診療体制の強化を図った。

セーフティネットとしての機能は、公立病院の趣旨として果たしてきたが、今後も継続していくために、新病院に移転することでさらに強化を図ることに努めていく。

がん診療連携推進病院としては、がんにおけるさまざまな相談をがん相談支援センターで受けており、高度専門治療が必要な患者に対しては、岡山大学病院をはじめ地域の高度医療機関と連携して診療を行っている。また、緩和ケア病棟への転院や在宅看取りのために在宅チームと連携するなど退院支援も積極的に行っている。

脳卒中においては、大学病院以外の医療施設としては岡

山県内唯一の日本脳神経血管内治療学会研修施設に認定されることが決定した。

急性心筋梗塞については、急性期治療が必要な患者に対しては、来院から90分以内に緊急冠動脈形成術が施行できており、ほぼ循環器学会が定めたガイドラインに沿った治療ができています。急性期治療が終了した患者については、合併症の予防と早期退院に努めている。

糖尿病については、多くの糖尿病患者の合併症を様々な関係科と緊密に連携して治療を行った。また、多職種が連携してチーム医療を充実させ、市民を対象とした講演等を行っている。

医療事故の予防及び再発防止対策として、インシデントの発生時は、各部署で要因分析や多職種カンファレンスが実施され、事故防止につなげている。

院内感染防止対策としては、院内感染対策委員会による研修会を頻回に行い、連携病院と協力して評価も行った。また、院内感染マニュアルについては全面的な見直しを行った。

医療に関する調査や臨床研究、治験については、倫理委員会、治験審査委員会を通じて求められる水準を維持しながら積極的に行った。また、学会発表については年間を通じて多数の発表を行った。

患者ニーズの把握及び改善については、入院・外来患者

のそれぞれにアンケートを行い、アンケート結果については院内で検討、ニーズについての周知を行い、改善点については案件ごとに対応した。

市民へのわかりやすい情報発信としては、レディオMOMOによる放送を毎月1回行っており、院内情報表示システムで様々な情報を発信している。また、ホームページを完全リニューアルして、デザイン、情報発信機能の充実はもちろんこと、ホームページの構造も見直し、訪問者のアクセス解析を月に1回行ない、ホームページの刷新を常時行ってきた。

地域連携としては、退院支援システムにより多職種協働で退院支援を行い地域へつなげ、「晴れやかネット」の開示及び閲覧施設として、患者の診療情報を他院と共有し、地域医療機関との連携の強化を図っている。

医師不足地域への診療支援を増加させるとともに、各地で講演を数多く実施して病診連携や医師同士の情報共有、多職種連携等様々な地域への専門知識の普及や事例紹介に努めた。

市民の疾病予防に向けての取り組みとしては、定期刊行雑誌への掲載や講演、健康相談を行った。

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

これまで、市民病院、せのお病院と縦割りの考え方の下で経営されてきた両院が、法人本部を設置することによって様々なことが一元管理できるようになった。各院の現場レベルで行うことと、両院のとりまとめ機関が一括して行うこととの役割分担を明確化し、法人として一枚岩で運営できる体制が整備された。

人事戦略としては、岡山大学との連携を図ったこともあり、研修医の充実に成功した。また法人独自の人事施策を実施できるようになり、看護師、医療技術員等の就職応募者も増えた。とりわけ、事務職については高い倍率の試験となり、どの職種についても優秀な人材の確保に成功したと感じている。

病院機能評価については、改善要望事項についての該当項目もなく一定の評価を受けることができた。監事監査について一部指摘事項があったが、新年度に向けて改善済みである。

ワークライフバランスについては、さまざまな職員から意見、要望が上がってくる中で、制度対応する必要があるものか、運用で対応できるものであるのか、本当の意味でワークとライフの「バランス」を考えた要望となっているのか等を検討しながら、改善の必要があると判断したものについては、可能な限り改善できるように努めた。

### 第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

経営戦略としては、部門別のDPCデータ分析及び経営コンサルタントを委託した。また、新病院で導入するSPDへ向けて業務分析を行った。

なお、行動計画の評価手法として部門別に明確な目標値による評価が行えるような仕組みを構築中である。

### 第4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置

法人化に伴う運営形態の変化への対応ともう一つ大きな目玉が新病院の建築であった。救急車を複数台同時に受け入れることができる救急車専用ロータリー、増加する救急患者の受け入れに対応可能な広大なERエリア、ヘリポートの設置、駅から直結したペDESTリアンデッキの設置、立体駐車場との直結、将来的なIT医療の変革に柔軟に対応できるようITインフラにおいては統合LANの完成及び無線LANの充実等。これらのおり、岡山ERと保健医療福祉連携への貢献に向けて十分に対応できるハード整備に成功した。

### (3) 今後の課題

業務・施設の拡大による支出増となったが、それ以上の収益増を出せるよう、新築された病院の機能をフルに発揮して、自律的な経営に欠かせない財務改善を実現する必要がある。

市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、医療安全研修を計画通り行ったが、参加率は70%であった。さらに参加率を上げることと、医療に関する調査や臨床研修、治験推進の充実に努め、今後は論文数を増加させることで水準の向上に寄与することも必要である。

また、医療の質の指標（Q I：クオリティインディケーター）について、クリニカルパスの種類数、使用率を考えており、現在クリニカルパスの統計機能の改善を進め、今後の使用について検討を進めている。

#### **（４） その他**

患者の状況に応じた切れ目のないサービスの提供、救急初期診療後のコーディネートを積極的に実施していく。そして、地域の中心的な医療機関を目指し、外来・入院患者の増加に努める。そのために情報発信力、地域連携力等の必要性をしっかりと分析して、効率の良い運営を図る努力が必要である。

### 3. 小項目別の自己評価

市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

#### 1 市立病院として特に担うべき医療 (1) 市民病院

中期目標	ア 新市民病院は、24時間365日すべての症状の患者を受け入れる岡山ERの円滑な実施により、市民が安心できる救急医療を提供するとともに、岡山ERでの救急初期診療後は他の医療機関に引き継ぐコーディネート（転送・転院・紹介）を積極的に行うこと。また、救急医療機関のひとつとして、地域における救急医療の一翼を担うとともに、各医療機関の役割分担と連携を促進し、地域医療ネットワーク全体で救急医療を支える体制づくりに貢献すること。
------	--

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価										
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等									
<p>ア 新市民病院は、岡山ERとして24時間365日救急対応する体制を確立し、軽症の自力受診（walk in）患者から重症の救急搬送患者、さらには他の医療機関で受入困難とされた患者まで、すべての症状の救急患者の受入を目指す。受け入れた救急患者は救急初期診療の後、院内の専門治療部門に引き継ぐとともに、患者の症状に応じてコーディネート（転送・転院・紹介）機能を発揮することで、3次救急医療機関の岡山大学病院をはじめとする地域の医療機関との密な連携を促進する。そのために、救急専門医、トリアージナースなど救急医療を担う必要な人材を確保し、さらには岡山大学との連携のもとでこれらの人材を育成し、地域へ輩出する役割を果たす。</p> <p>なお、新市民病院開院までは、現市民病院で提供し得る救急医療を維持しつつ、岡山ERに向けた準備を着実に進める。</p>	<p>ア 現市民病院救急センターで提供し得る救急医療を維持しつつ、救急専門医、トリアージナースなど救急医療を担う必要な人材の確保及び育成するなど岡山ERに向けた準備を着実に進める。</p>	<p>ア 市民病院に勤務する救急専門医は3名であり確保は非常に困難な課題であった。平成26年4月より総合内科が立ち上がり、内科系の救急診療の充実は得られている。救急専門医のうち1名は、派遣ではなく当院の医師が勉強して取得したものであり、全国でも約3,000人しかいない非常に難しい資格で、2名いれば救急専門医の訓練施設にもなる。平成26年度には数字としての増員はなかったが、救急診療を行う土台作りはできてきており、来年以降の救急専門医確保に向けての進歩があった。</p> <p>具体的な土台作りとしては、後期研修医が来るようになったことや移転後たちまち日本最大級の岡山ERに対応していけるように、職員のモチベーションを向上させ、救急患者数の増加、救急要請応需率の増加に意欲的に努めた。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度 目標値</th> <th>26年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>16,500人</td> <td>16,916人</td> </tr> <tr> <td>救急要請応需率</td> <td>79.0%</td> <td>87.7%</td> </tr> </tbody> </table>		26年度 目標値	26年度 実績	救急患者数	16,500人	16,916人	救急要請応需率	79.0%	87.7%	A		
	26年度 目標値	26年度 実績												
救急患者数	16,500人	16,916人												
救急要請応需率	79.0%	87.7%												

		<p>また、救急専門医増員は非常に困難であるため、27年度以降に救急専門医の増員ができなかった場合に備えて、毎週金曜日の症例検討会、隔週土曜日の救急レクチャーにより、院内の各科専門医および、専修医が協力して救急医療を行う風土づくりを行うことにより、岡山ERに向けた準備を着実に進めた。</p> <p>トリアージナースの育成に関しては、できるだけ多くの患者に対して実践することが大切であると考えた。walk in 患者全例にトリアージを行う体制を維持することで経験値を増やし、育成に努めた。また、トリアージの質を担保する必要があり、月1回、トリアージの検証を行った。</p>			
--	--	--	--	--	--

中期目標		イ 第二種感染症指定医療機関として、引き続き現在の役割を果たすこと。また、新型インフルエンザ等の感染症発生時には、感染症指定医療機関として先導的かつ中核的な役割を果たすこと。			
中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
イ 感染症医療について、第二種感染症指定医療機関として、感染症患者を常時受け入れられる体制を維持するとともに、二類感染症、新型インフルエンザ等の感染症発生においては、地域で先導的かつ中核的な役割を担う。	イ 感染症医療について、第二種感染症指定医療機関として、感染症患者を常時受け入れられる体制を維持するとともに、二類感染症、新型インフルエンザ等の感染症発生においては、地域で先導的かつ中核的な役割を担う。	イ 結核患者の受け入れを常時行っており、二類感染症の受け入れ態勢も堅持した。二類感染症の大量発生事案はなかったが、笠岡市における鳥インフルエンザ発生事案では、殺処分に関与していた県職員等を受け入れる依頼があり、すべて依頼分は受け入れ、地域で中心的医療機関として対応した。  また、岡山県の会議に参加し、県南東部の基幹施設として岡山市以外の範囲も含めて発生時の対策・システム作りに関与した。また、岡山空港での二類感染症発生時にも本来の病院業務に加えて検疫までも担当することになっており、岡山市内の他病院が担うことのできない範囲を受け持っている。	S		

<b>中期目標</b>	ウ 大規模災害に備え、傷病者の受入れや災害派遣などの医療救護が実施できる体制を構築するとともに、新市民病院開院後は、災害その他緊急時に迅速かつ適切な医療提供のできる拠点機能を確保すること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
ウ 災害医療について、災害医療研修、災害医療救護訓練を積極的に実施し、災害発生時に迅速な派遣・受入対応ができる体制を整備するとともに、災害発生時の医療活動に備えた医薬品、水、食料などの備蓄や諸設備の維持管理を行う。また、新市民病院において災害拠点病院の指定を受ける予定であり、それに向けて、災害派遣医療チーム（DMAT）や医療救護班の体制を整備する。	ウ 災害医療について、災害医療研修、災害医療救護訓練を積極的に実施し、災害発生時に迅速な派遣・受入対応ができる体制を整備するとともに、災害発生時の医療活動に備えた医薬品、水、食料などの備蓄や諸設備の維持管理を行う。また災害拠点病院の指定に向けて、災害派遣医療チーム（DMAT）や医療救護班の体制を整備する。	ウ 災害対策部会を発足し、月一回程度のペースで災害時のトリアージなどの勉強を行ない、医療資機材を購入し、災害拠点病院に向けての体制づくりに努めた。 また、DMATについては、1チーム（5人）研修を受け、承認され、27年度からの準備を着実に進めた。	<b>A</b>		

中期目標		エ 小児・周産期に係る地域の医療提供の状況を踏まえ、地域医療機関との連携及び役割分担を行うことにより、安心して子どもを産み育てられる小児・周産期医療を提供すること。			
中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
エ 小児・周産期医療については、一般の小児医療及び正常分娩を担う役割を果たすため必要な医療従事者を確保するとともに、小児の重症疾患やハイリスク出産等は高度・専門医療機関に搬送するなど地域医療機関と連携し、安心して子どもを産み育てられる医療を提供する。さらに、周産期においては助産師外来や産後ケアの充実を図り、分娩時以外の妊婦（母体）の健康を管理する役割を担う。	エ 小児・周産期医療について、安心して子どもを産み育てられる医療を提供するため、小児科医師を確保する。また、周産期において分娩時以外の妊婦（母体）の健康を管理するため、助産師外来や産後ケアを充実する。	エ 小児科常勤医師は新たに1名を確保したので、4名から5名に増加（うち1名は年度途中から休業）し、救急対応についても時間延長して対応可能な日数を増やし、診療体制がより充実した。  助産師外来は、平成26年6月から週1回の外来枠を確保して開始され、平成26年度中の受診は4名だった。産後ケア入院は平成25年9月から開始されており、平成26年度中の利用者は5名であったが、今後利用者の増加に伴い業績を積み体制が出来ており、情報発信をさらに拡充して、利用者の増加を図るように努める。	A		

中期目標	オ 市民のためのセーフティネット機能を果たすため、必要な診療基盤を備え、地域医療の中で十分な対応が難しい医療を提供すること。
------	--

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価										
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等									
オ 市民のためのセーフティネット機能を果たすため、診療体制を充実させ、市民に必要とされる医療、市内の医療提供体制の中で十分な対応が難しい医療の提供に努める。	オ 市民のためのセーフティネット機能を果たすため、診療体制を充実させ、市民に必要とされる医療、市内の医療提供体制の中で十分な対応が難しい医療の提供に努める。	<p>オ 断らない救急のために救急医の確保を行い、総合診療医の確保も行った。救急や感染症については、セーフティネットとして機能している。救急については設備が困難な状態のまま、かつ移転作業が増えたにもかかわらず、症例数を増加させ、かつ救急応需率を急激に上昇させ、岡山市内最高レベルに押し上げた。感染症については新型コロナウイルスへの対応システムを構築し、病院の活動範囲を超えて地域を支える取り組みを行っており、セーフティネットの役割を求められるレベル以上に果たしている。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度 目標値</th> <th>26年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>16,500人</td> <td>16,916人</td> </tr> <tr> <td>救急要請応需率</td> <td>79.0%</td> <td>87.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>循環器内科については平成 27 年度 4 月より 4 人体制で 24 時間 365 日の受け入れが可能となる体制の構築を平成 26 年度内に確立した。また、平成 27 年度 4 月より神経内科、心療内科の医師を確保し、精神科疾患を合併した症例への対応能力を大幅に増強する体制構築を平成 26 年度内に確立した。</p> <p>セーフティネット機能としては、社会的困窮者の受け入れや災害医療、感染症医療がある。社会的困窮者に対する受け入れは常時対応しており、災害医療についてはDMA T チームを編成し、研修も</p>		26年度 目標値	26年度 実績	救急患者数	16,500人	16,916人	救急要請応需率	79.0%	87.7%	<b>A</b>		
	26年度 目標値	26年度 実績												
救急患者数	16,500人	16,916人												
救急要請応需率	79.0%	87.7%												

		終了し平成 27 年度に災害拠点病院として認定を受ける体制を平成 26 年度内に完了した。			
--	--	---	--	--	--

中期目標	カ がん診療連携推進病院として、引き続き質の高いがん診療機能を提供するとともに、市民の健康を守る上で重要な脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病等の治療に取り組み、高度で専門性の高い医療を安定的に提供すること。
------	--

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>カ 〔がん〕</p> <p>がん診療連携推進病院として、診断から緩和ケアまで包括的ながん診療を行う。手術療法、化学療法を中心とした集学的治療を提供し、さらに高度専門的な治療が必要な患者に対しては、地域の高度医療機関と連携して診療を行う。</p> <p>〔脳卒中〕</p> <p>新市民病院において I V R センター、 S C U を整備し、より高度専門的な医療を提供する。また、より多くの重症患者を積極的に受け入れ、早期の急性期リハビリテーションを実施し、治療後は地域の医療機関と連携して、患者が早期に自立できるよう支援する。</p> <p>〔急性心筋梗塞〕</p> <p>常時、救急患者の一次診療を確実に実施できる体制を確立する。外科的治療や高度専門医療が必要な患者に対しては、地域の高度医療機関と連携して診療を行い、それ以外の患者には診療と早期の急性期リハビリテーションを実施し、治療後は地域の回復期リハビリ施設と連携して、患者が早期に自立できるよう支援する。</p>	<p>カ 〔がん〕</p> <p>がん診療連携推進病院として、診断から緩和ケアまで包括的ながん診療を行う。手術療法、化学療法を中心とした集学的治療を提供し、さらに高度専門的な治療が必要な患者に対しては、地域の高度医療機関と連携して診療を行う。</p> <p>〔脳卒中〕</p> <p>より多くの重症患者を積極的に受け入れ、早期の急性期リハビリテーションを実施し、治療後は地域の医療機関と連携して、患者が早期に自立できるよう支援する。</p> <p>〔急性心筋梗塞〕</p> <p>外科的治療や高度専門医療が必要な患者に対しては、地域の高度医療機関と連携して診療を行い、それ以外の患者には診療と早期の急性期リハビリテーションを実施し、治療後は地域の回復期リハビリ施設と連携して、患者が早期に自立できるよう支援する。</p>	<p>カ 〔がん〕</p> <p>がんについてはがん診療連携拠点病院が県内に整備されており、がん診療連携推進病院として、高度医療を提供する拠点病院と連携を深め、国の制度設計の中で効率よく機能すべく対応している。また、がん診療連携協議会の各部会に参加し、がん診療連携拠点病院や他のがん診療連携推進病院と情報の共有を図り、それを院内へフィードバックしている。</p> <p>5 大がんにおいては、189 の医療機関と連携しており、キャンサーボードを定期的に開催し (3 か月に 1 回)、地域の多職種に参加してもらって見識を深めている。院内では緩和ケアチームの活動があり、院内ラウンドを週 1 回、多職種カンファレンスを月 1 回、勉強会を 2 か月に 1 回活動している。</p> <p>がんにおけるさまざまな相談は、がん相談支援センターで受けた。高度専門的な治療が必要な患者に対しては、岡山大学病院をはじめ地域の高度医療機関へつなげて連携して診療を行っている。また、緩和ケア病棟への転院や在宅看取りのために在宅チームへつなげるなど退院支援も積極的に行っている。</p>	<b>A</b>		

<p>〔糖尿病〕</p> <p>診断等の初期診療から合併症を伴う急性増悪時における治療まで対応できる専門診療体制を整備する。安定治療期間においては、地域の医療機関と連携して、患者の健康を管理する。</p>	<p>〔糖尿病〕</p> <p>診断等の初期診療から合併症を伴う急性増悪時における治療まで専門診療体制により対応する。安定治療期間においては、地域の医療機関と連携して、患者の健康を管理する。</p>	<p>〔脳卒中〕</p> <p>多くの脳卒中患者を受け入れ、急性期リハビリを実施し、地域連携パスを頻用し患者の早期自立を促した。IVR治療例が飛躍的に増加し、平成26年度の治療実績により、平成27年4月より岡山県内の大学病院以外の医療施設としては唯一の日本脳神経血管内治療学会研修施設に認定されることが決定した。このように、より多くの症例を受け入れ実績を残すとともに、客観的評価に耐えられる医師と質の確保も行った。</p> <p>〔急性心筋梗塞〕</p> <p>受け入れた症例については、質の高い治療が実施できている。来院から90分以内に緊急冠動脈形成術が施行できおり、ほぼ循環器学会が定めたガイドラインに沿った治療ができている。</p> <p>外科的治療（冠動脈バイパス手術等）が必要な患者については連携している地域の心臓血管外科病院に迅速に転送して治療を行っている。急性期治療が終了した患者についてはリハビリテーションを施行し、合併症の予防と早期退院に努めている。</p> <p>平成27年度からは応需件数の増加のために循環器内科医の増員が必須であったが、平成26年度中に採用が確定した。</p> <p>〔糖尿病〕</p> <p>多くの糖尿病患者の合併症を関係各科</p>		
--	---	--	--	--

		<p>と緊密に連携して治療を行い、多くの科と連携して糖尿病患者の手術前後の血糖コントロールを行い、糖尿病患者が安心して手術を受けられる体制を整え、多職種が連携してチーム医療を充実させた。</p> <p>糖尿病内科による糖尿病診療のみならず、手術症例や他科入院の症例の管理についても実施体制の確立ができた。</p>			
--	--	--	--	--	--

(2) せのお病院

中期目標 ア 救急告示病院として周辺地域の初期救急医療を提供する役割を果たすこと。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価																																																																																																																			
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																																																																																																																		
<p>ア 周辺地域の初期救急患者を可能な限り受け入れる体制を維持するとともに、市民病院を含む地域の高度医療機関と密接に連携し、地域医療に貢献する。</p> <p><b>【目標値】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">市民病院</th> <th colspan="2">せのお病院</th> </tr> <tr> <th>平成24年度実績</th> <th>平成29年度目標</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成29年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>16,443人</td> <td>24,000人</td> <td>1,513人</td> <td>1,550人</td> </tr> <tr> <td>救急応需率 (救急車搬送受入れ率)</td> <td>78.9%</td> <td>80.0%</td> <td>35.0%</td> <td>40.0%</td> </tr> <tr> <td>手術件数(内視鏡含む)</td> <td>2,928件</td> <td>3,400件</td> <td>160件</td> <td>160件</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【関連指標：平成24年度実績】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>市民病院</th> <th>せのお病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急車搬送受入れ件数</td> <td>3,880 件</td> <td>229 件</td> </tr> <tr> <td>救急からの入院患者の割合</td> <td>15.7 %</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">入院患者数</td> <td>がん</td> <td>1,255 人</td> <td>20 人</td> </tr> <tr> <td>脳卒中</td> <td>437 人</td> <td>6 人</td> </tr> <tr> <td>急性心筋梗塞</td> <td>16 人</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>糖尿病</td> <td>115 人</td> <td>12 人</td> </tr> </tbody> </table>	項目	市民病院		せのお病院		平成24年度実績	平成29年度目標	平成24年度実績	平成29年度目標	救急患者数	16,443人	24,000人	1,513人	1,550人	救急応需率 (救急車搬送受入れ率)	78.9%	80.0%	35.0%	40.0%	手術件数(内視鏡含む)	2,928件	3,400件	160件	160件	項目	市民病院	せのお病院	救急車搬送受入れ件数	3,880 件	229 件	救急からの入院患者の割合	15.7 %	—	入院患者数	がん	1,255 人	20 人	脳卒中	437 人	6 人	急性心筋梗塞	16 人	—	糖尿病	115 人	12 人	<p>ア 周辺地域の初期救急患者を可能な限り受け入れる体制を維持するとともに、市民病院を含む地域の高度医療機関と連携した医療を提供する。</p> <p><b>【目標値】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">市民病院</th> <th colspan="2">せのお病院</th> </tr> <tr> <th>平成24年度実績</th> <th>平成26年度目標</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成26年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>16,443人</td> <td>16,500人</td> <td>1,513人</td> <td>1,520人</td> </tr> <tr> <td>救急応需率 (救急車搬送受入れ率)</td> <td>78.9%</td> <td>79.0%</td> <td>35.0%</td> <td>36.0%</td> </tr> <tr> <td>手術件数(内視鏡含む)</td> <td>2,928件</td> <td>2,950件</td> <td>160件</td> <td>160件</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【関連指標：平成24年度実績】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>市民病院</th> <th>せのお病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急車搬送受入れ件数</td> <td>3,880 件</td> <td>229 件</td> </tr> <tr> <td>救急からの入院患者の割合</td> <td>15.7 %</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">入院患者数</td> <td>がん</td> <td>1,255 人</td> <td>20 人</td> </tr> <tr> <td>脳卒中</td> <td>437 人</td> <td>6 人</td> </tr> <tr> <td>急性心筋梗塞</td> <td>16 人</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>糖尿病</td> <td>115 人</td> <td>12 人</td> </tr> </tbody> </table>	項目	市民病院		せのお病院		平成24年度実績	平成26年度目標	平成24年度実績	平成26年度目標	救急患者数	16,443人	16,500人	1,513人	1,520人	救急応需率 (救急車搬送受入れ率)	78.9%	79.0%	35.0%	36.0%	手術件数(内視鏡含む)	2,928件	2,950件	160件	160件	項目	市民病院	せのお病院	救急車搬送受入れ件数	3,880 件	229 件	救急からの入院患者の割合	15.7 %	—	入院患者数	がん	1,255 人	20 人	脳卒中	437 人	6 人	急性心筋梗塞	16 人	—	糖尿病	115 人	12 人	<p>ア 本年度は、常勤医師が3名（内科医2名，整形外科医1名）減り，整形外科の常勤医師が不在となったため，手術件数は50件（対前年比40.3%）と大幅に減少した。また，初期救急患者は可能な限り受け入れているが，20時以降の救急搬送及びウォークイン患者等の受入停止，及び時間内においても常勤医師不足により，救急要請への応需が困難な状況であり，救急患者数1,374人（対前年比84.9%）は減少し，救急搬入件数については，応需率こそ平成24年度より3.0ポイント上昇しているものの，160件（対前年比68.4%）と減少している。</p> <p>(せのお病院)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度 目標値</th> <th>26年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>1,520人</td> <td>1,374人</td> </tr> <tr> <td>救急要請応需率</td> <td>36.0%</td> <td>38.0%</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>160件</td> <td>50件</td> </tr> </tbody> </table> <p>(市民病院)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度 目標値</th> <th>26年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>16,500人</td> <td>16,916人</td> </tr> <tr> <td>救急要請応需率</td> <td>79.0%</td> <td>87.7%</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>2,950件</td> <td>3,355件</td> </tr> </tbody> </table>		26年度 目標値	26年度 実績	救急患者数	1,520人	1,374人	救急要請応需率	36.0%	38.0%	手術件数	160件	50件		26年度 目標値	26年度 実績	救急患者数	16,500人	16,916人	救急要請応需率	79.0%	87.7%	手術件数	2,950件	3,355件	<p>C</p>
項目		市民病院		せのお病院																																																																																																																			
	平成24年度実績	平成29年度目標	平成24年度実績	平成29年度目標																																																																																																																			
救急患者数	16,443人	24,000人	1,513人	1,550人																																																																																																																			
救急応需率 (救急車搬送受入れ率)	78.9%	80.0%	35.0%	40.0%																																																																																																																			
手術件数(内視鏡含む)	2,928件	3,400件	160件	160件																																																																																																																			
項目	市民病院	せのお病院																																																																																																																					
救急車搬送受入れ件数	3,880 件	229 件																																																																																																																					
救急からの入院患者の割合	15.7 %	—																																																																																																																					
入院患者数	がん	1,255 人	20 人																																																																																																																				
	脳卒中	437 人	6 人																																																																																																																				
	急性心筋梗塞	16 人	—																																																																																																																				
	糖尿病	115 人	12 人																																																																																																																				
項目	市民病院		せのお病院																																																																																																																				
	平成24年度実績	平成26年度目標	平成24年度実績	平成26年度目標																																																																																																																			
救急患者数	16,443人	16,500人	1,513人	1,520人																																																																																																																			
救急応需率 (救急車搬送受入れ率)	78.9%	79.0%	35.0%	36.0%																																																																																																																			
手術件数(内視鏡含む)	2,928件	2,950件	160件	160件																																																																																																																			
項目	市民病院	せのお病院																																																																																																																					
救急車搬送受入れ件数	3,880 件	229 件																																																																																																																					
救急からの入院患者の割合	15.7 %	—																																																																																																																					
入院患者数	がん	1,255 人	20 人																																																																																																																				
	脳卒中	437 人	6 人																																																																																																																				
	急性心筋梗塞	16 人	—																																																																																																																				
	糖尿病	115 人	12 人																																																																																																																				
	26年度 目標値	26年度 実績																																																																																																																					
救急患者数	1,520人	1,374人																																																																																																																					
救急要請応需率	36.0%	38.0%																																																																																																																					
手術件数	160件	50件																																																																																																																					
	26年度 目標値	26年度 実績																																																																																																																					
救急患者数	16,500人	16,916人																																																																																																																					
救急要請応需率	79.0%	87.7%																																																																																																																					
手術件数	2,950件	3,355件																																																																																																																					

中期目標		イ 周辺地域の中核病院として引き続き市民に必要とされる医療を提供する役割を果たすこと。									
中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価							
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等						
イ 周辺地域を中心とした市民に必要とされる医療を引き続き提供するとともに、必要な人員の体制を維持する。	イ 周辺地域を中心とした市民に必要とされる医療を引き続き提供するとともに、必要な人員の体制を維持する。	<p>イ 周辺地域の中核病院として、近隣医療機関からの紹介患者受入れや、高度医療機器（CT, MRI）による受託検査を実施した。</p> <p>紹介患者の受け入れについては、分母となる新患者数が3,451人（対前年比84.3%）と減少したのに加え、分子となる紹介状を持って来院する新規患者等1,095人（対前年比99.1%）がほぼ同数であったため、紹介率は4.8ポイント上昇した。</p> <p>一方、受託検査件数は146件（対前年比58.4%）と減少傾向にある。（H24 132件）</p> <p>（せのお病院実績）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>31.8%</td> </tr> <tr> <td>受託検査件数</td> <td>146 件</td> </tr> </tbody> </table>		H26 年度	紹介率	31.8%	受託検査件数	146 件	B		
	H26 年度										
紹介率	31.8%										
受託検査件数	146 件										

中期目標		ウ 市民病院をはじめ高度専門医療を担っている病院の後方支援病院としての役割を担うこと。															
中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価													
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等												
ウ 市民病院をはじめとする地域の高度医療機関で一次治療を受けた患者を受け入れる後方支援の役割を果たす。	ウ 市民病院をはじめとする地域の高度医療機関で一次治療を受けた患者を受け入れる後方支援の役割を果たす。	ウ 10月に地域包括ケア病床(22床)を開設した。市民病院はじめ、主要な急性期病院から紹介患者を受け入れた。  ・紹介患者受入れ状況(せのお病院) <table border="1" data-bbox="994 564 1402 807"> <tbody> <tr> <td>岡山市民病院</td> <td>31件</td> </tr> <tr> <td>岡山労災病院</td> <td>8件</td> </tr> <tr> <td>岡山赤十字病院</td> <td>11件</td> </tr> <tr> <td>倉敷中央病院</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>8件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>64件</td> </tr> </tbody> </table> ・紹介患者等の延べ入院者数2,605人	岡山市民病院	31件	岡山労災病院	8件	岡山赤十字病院	11件	倉敷中央病院	6件	その他	8件	計	64件	B		
岡山市民病院	31件																
岡山労災病院	8件																
岡山赤十字病院	11件																
倉敷中央病院	6件																
その他	8件																
計	64件																

中期目標		エ 訪問看護をはじめとする在宅サービスについて，周辺地域の保健医療福祉関係機関との連携及び協力体制の充実を図ること。			
中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
エ 周辺地域の市民の健康を守るために，公民館との連携による健康支援に係る講座の開催，西ふれあいセンターとの連携による在宅サービスに係る支援など，周辺地域の保健医療福祉関係機関との連携を強化する。	エ 地域の公民館との連携による健康支援講座を開催するとともに，西ふれあいセンターとの連携による在宅サービス支援を行う。	エ 妹尾公民館との共催により利用者のアンケートに基づき要望性の高いテーマにおいて市民健康講座を公民館で8回開催し，毎月，健康相談・各種測定を実施した。 その一方で，西ふれあいセンターが実施する24時間訪問介護事業の夜間事務所として場所を提供するとともに，相談や受入等による連携により在宅サービスを支援した。また，近隣の訪問看護ステーションとの連携で在宅支援を実践している。 ・延訪問看護日数 105日（対象者5人）	B		

中期目標		オ 大規模災害に備え、傷病者の受入れや医療救護ができる体制を構築すること。			
中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
オ 災害に備え、応急医療資機材や応急用医薬品を備蓄する。災害発生時には市民病院をはじめとする地域の医療機関と連携し、医療救護活動を行うとともに、地域の拠点としての避難場所を提供する。	オ 災害に備え、応急医療資機材や応急用医薬品を備蓄する。災害発生時には市民病院をはじめとする地域の医療機関と連携し、医療救護活動を行うとともに、地域の拠点としての避難場所を提供する。	<p>オ 大規模災害に備え、医薬品と入院患者及び職員の食料・飲料水 3 日分を備蓄した。食料はレトルト食品、缶詰等、飲料水は、高架水槽（18 m<sup>3</sup>）とは別に 500ml ペットボトルで 480 本備蓄している。</p> <p>また、災害発生時（岡山市が震度 4 以上で病院周辺に被害があるとき、瀬戸内沿岸周辺に津波警報が発令されたとき、及び近隣周辺で大規模災害（火災・爆発等）が発生した場合）、初動班は自主的に集合する体制を整えている。災害発生時の初動班は、全職員 48 人中 20 名が集合する予定である。</p>	B		

2 医療の質の向上

(1) 安全・安心な医療の提供

中期目標	ア 市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、医療安全に係る情報の収集及び分析を行うとともに、全職員の医療安全に対する知識向上に努め、医療事故の予防及び再発防止対策に取り組むなど、積極的かつ組織的に医療安全対策を徹底すること。
------	--

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価																
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等															
<p>ア 医療安全管理委員会を定期的に開催し、患者が安心して医療を受けることのできる環境を整備するとともに、全職員の医療安全に関わる知識の向上に努め、ヒヤリハット事例であるインシデントや医療事故（アクシデント）について収集・分析し、研修などを通じて共有することにより、医療事故の予防及び再発防止に取り組む。</p> <p>また、重大な医療事故が発生した場合には、医療事故対策委員会を開催し、徹底して事故発生の原因分析を行い、再発防止に向けた組織的な対応を図る。</p>	<p>ア 医療事故の予防及び再発防止について、医療安全管理委員会を定期的に開催する。また、全職員の医療安全に関わる知識の向上を図るため、インシデントやアクシデントについて研修するとともに収集・分析を行う。</p> <p>重大な医療事故が発生した場合には、医療事故対策委員会を開催し、徹底して事故発生の原因分析を行い、再発防止に向けた組織的な対応を図る。</p>	<p>ア 医療安全管理委員会は月1回開催し、インシデントやアクシデントの把握が十分にできる体制を確立した。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">25年度実績</td> <td style="text-align: center;">26年度実績</td> </tr> <tr> <td>インシデント報告数</td> <td style="text-align: center;">1,514件</td> <td style="text-align: center;">1,682件</td> </tr> <tr> <td>アクシデント報告数</td> <td style="text-align: center;">14件</td> <td style="text-align: center;">12件</td> </tr> </table> <p>※重大な医療事故はなかった。</p> <p>報告数は、1ヶ月あたり病床数の2分の1といわれるが、病床稼働率を鑑み1日平均入院患者数で換算すると同程度の数値となった。</p> <p>医療安全研修は計画通り実施する体制ができた。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">26年度 目標値</td> <td style="text-align: center;">26年度 実績</td> </tr> <tr> <td>医療安全研修</td> <td style="text-align: center;">13回</td> <td style="text-align: center;">26回</td> </tr> </table> <p>全職員対象研修の参加率は約70%であり、職員の参加率に課題が残るが、体制整備は充実した。</p> <p>インシデント報告があれば、カルテ、</p>		25年度実績	26年度実績	インシデント報告数	1,514件	1,682件	アクシデント報告数	14件	12件		26年度 目標値	26年度 実績	医療安全研修	13回	26回	A		
	25年度実績	26年度実績																		
インシデント報告数	1,514件	1,682件																		
アクシデント報告数	14件	12件																		
	26年度 目標値	26年度 実績																		
医療安全研修	13回	26回																		

		<p>関係部署への確認を行い、可能な限り即対応を行っている。どうしても即対応できないものについては、各活動グループにより対策を検討後対応している。報告、対策事例として一番多いのは、薬剤における内服薬のインシデントが173件報告され、与薬方法の院内統一に向けて与薬カートの見直しを行った。加えて、病棟薬剤師を配置するため、薬剤師の増員を行った。また、転倒、転落の報告も多く、その予防のため多職種でカンファレンスを行い、転倒、転落の減少に努めた。その結果、前述のとおり重大な医療事故はなかった。</p>			
--	--	---	--	--	--

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価									
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
イ 患者に対して、薬剤師による薬剤管理指導や管理栄養士による栄養食事指導・相談を充実する。	イ 患者に対して、薬剤師による薬剤管理指導や管理栄養士による栄養食事指導・相談を実施する。	<p>イ</p> <p>[薬剤管理]</p> <p>薬剤管理指導は目標値に達した。 (目標値：400件/月)</p> <p>抗がん剤ミキシング、持参薬の鑑別の増大も行った。</p> <p>[栄養管理]</p> <p>外来・入院患者に対して、医師の指示に基づき、また指導手順書(指導対象によって手順が異なり、説明者によってばらつきが出ないように指導基準、ポイント、手順をまとめたもの)のとおり指導を実施し診療録に記録した。</p> <p>26年度実績：907件 (内訳)</p> <table border="1"> <tr> <td>個人指導</td> <td>外来：285件 入院：329</td> </tr> <tr> <td>集団指導</td> <td>68件</td> </tr> <tr> <td>人間ドック、 特定健診</td> <td>37件</td> </tr> <tr> <td>透析予防指導</td> <td>188件</td> </tr> </table> <p>入院患者に対し、病棟スタッフ、委託スタッフと連携し、治療による症状に合わせた食事内容を患者と相談した。相談は定期訪問により行うだけでなく、要望があれば即対応し、相談内容は診療録や病棟訪問記録に記載していった。</p>	個人指導	外来：285件 入院：329	集団指導	68件	人間ドック、 特定健診	37件	透析予防指導	188件	A		
個人指導	外来：285件 入院：329												
集団指導	68件												
人間ドック、 特定健診	37件												
透析予防指導	188件												

中期目標		イ 院内感染防止に対する教育，訓練及び啓発を徹底するとともに，問題点を把握し，改善策を講ずる等の院内感染防止対策を確実に実施すること。			
中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
ウ 院内感染対策委員会を定期的を開催するとともに，全職員の院内感染に関わる知識の向上に努め，研修への積極的な参加や院内感染防止マニュアルの適宜見直しを通じて，院内感染の発生防止に取り組む。	ウ 院内感染の発生防止について，院内感染対策委員会を定期的を開催する。また，全職員の院内感染に関わる知識の向上を図るため，職員の研修への積極的な参加を促すとともに院内感染防止マニュアルを見直す。	<p>ウ 感染症認定看護師が感染症チームの立て直しを専任で行った。また，26年度中に新たに別の看護師が感染症の認定看護師資格を取得し，感染症認定看護師の2人が中心となって看護師，医師に勉強会等を徹底した。具体的には，院内感染対策委員会を月に1度のペースで開催し，感染症の動向を把握する体制が確立できた。院内感染に関する知識の向上を図るために職員対象の研修会を計28回行い，新病院移転に向けて，ノズル1つに至るまで感染源となるリスク箇所を全体的に確認，整理し，病院機能強化に生かした。</p> <p>また，院内感染マニュアルについては全面的な見直しを行い，改訂した。</p> <p>VREについては，全国的にみると名古屋，藤沢，北九州でアウトブレイク事例がある。市民病院でも独法移行前の旧市民病院でアウトブレイクが起きている。北九州は常在菌化してしまい全く減っておらず，名古屋，藤沢では終息宣言をしたが，院内には残っている状況。これに対して，市民病院はキャリアすらゼロになっており，これは全国でも稀有な対応ができたと考えている。MRSAやMDRPについても減少傾向を続けており，総じて改善傾向が強い。</p>	S		

<b>中期目標</b>	ウ 医療法をはじめとする関係法令を遵守することはもとより、個人情報の保護及び情報公開に関して適切に対応するなど行動規範と倫理を確立し、適正な病院運営を行うこと。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価			
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等		
エ 個人情報保護マニュアルを整備し、コンプライアンスに関する研修を定期的開催して、職員の行動規範と倫理を徹底する。また、カルテなどの個人情報の保護及び情報公開に関しては、市の条例に基づき適切に対応する。	エ 職員の行動規範と倫理を徹底するため、個人情報保護マニュアルを整備するとともに、コンプライアンスに関する研修を行う。  カルテなどの個人情報の保護及び情報公開に関しては、市の条例に基づき適切に対応する。	エ 「個人情報保護取扱マニュアル」の冊子を作成し、各部署所属長あて配付した。今後も事例研究、職員の意見等も取り入れながら、個人情報保護委員会を中心として、マニュアルの内容を改正していきたい。なお、新病院の移転時期とも重なり、職員研修ができなかったため、平成27年度は研修実施する  カルテなど個人情報の公開に関しては、「岡山市情報公開条例」と「診療情報の提供等に関する指針」に則り、患者と相互信頼関係を損なうことのないよう適切に情報公開を行った。  平成26年度実績 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>開示件数</td> <td>20件</td> </tr> </table>	開示件数	20件	<b>A</b>		
開示件数	20件						

## (2) 診療体制の強化・充実

## 中期目標

安全で質の高い医療を安定的・継続的に提供するため、岡山E Rとの連携強化による総合的な診療体制を確立するとともに、多職種連携によりチーム全体で医療を推進するなど、診療体制の強化・充実を図ること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価																																																				
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																																																			
<p>新市民病院において、総合的な診療を行うべく、体制と業務の両面において強化を図る。</p> <p>体制面では、医療従事者を増強するとともに、「総合診療内科」を新たに設置し、包括した医療の提供できる体制を構築する。また、日々の診療で行っているカンファレンスとは別に多職種横断的な症例研修会を積極的に実施し、医療の質の向上を図る。</p> <p>業務面では、岡山E Rと各診療科との連携による診療を行うとともに、NSTをはじめ多職種で構成されるチーム医療を積極的に行う。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">市民病院</th> <th colspan="2">せのお病院</th> </tr> <tr> <th>平成24年度実績</th> <th>平成29年度目標</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成29年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>院内における多職種での症例研修会実施回数</td> <td>37回</td> <td>43回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	市民病院		せのお病院		平成24年度実績	平成29年度目標	平成24年度実績	平成29年度目標	院内における多職種での症例研修会実施回数	37回	43回	6回	6回	<p>医師、看護師など医療従事者を確保するとともに、総合的な診療を提供する「総合内科」を新たに設置する。</p> <p>日々の診療で行っているカンファレンスとは別に多職種横断的な症例研修会を積極的に実施し、医療の質の向上を図る。</p> <p>NSTをはじめ多職種で構成されるチーム医療を積極的に行う。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">市民病院</th> <th colspan="2">せのお病院</th> </tr> <tr> <th>平成24年度実績</th> <th>平成26年度目標</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成26年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>院内における多職種での症例研修会実施回数</td> <td>37回</td> <td>37回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	市民病院		せのお病院		平成24年度実績	平成26年度目標	平成24年度実績	平成26年度目標	院内における多職種での症例研修会実施回数	37回	37回	6回	6回	<p>NST研修会、救急症例検討会など多職種での研修会を開催している。今後チーム医療の充実のために回数を重ねていきたい。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度 目標値</th> <th>26年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民病院</td> <td>37回</td> <td>73回</td> </tr> <tr> <td>せのお病院</td> <td>6回</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table> <p>(市民病院内訳)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修会</th> <th>26年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療安全研修</td> <td>26回</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム勉強会</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>救急症例研修会</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>NST研修会</td> <td>8回</td> </tr> <tr> <td>院内感染研修会</td> <td>30回</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>73回</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成26年度せのお病院では、従来内科医を中心に実施していた症例研修会が、常勤医の減員により1回しか実施できなかった。平成27年度以降は、各部門で実施している研修会を、多職種の参加を呼かけ実施するよう改善する。</p>		26年度 目標値	26年度 実績	市民病院	37回	73回	せのお病院	6回	1回	研修会	26年度 実績	医療安全研修	26回	緩和ケアチーム勉強会	4回	救急症例研修会	5回	NST研修会	8回	院内感染研修会	30回	計	73回	A		
項目		市民病院		せのお病院																																																				
	平成24年度実績	平成29年度目標	平成24年度実績	平成29年度目標																																																				
院内における多職種での症例研修会実施回数	37回	43回	6回	6回																																																				
項目	市民病院		せのお病院																																																					
	平成24年度実績	平成26年度目標	平成24年度実績	平成26年度目標																																																				
院内における多職種での症例研修会実施回数	37回	37回	6回	6回																																																				
	26年度 目標値	26年度 実績																																																						
市民病院	37回	73回																																																						
せのお病院	6回	1回																																																						
研修会	26年度 実績																																																							
医療安全研修	26回																																																							
緩和ケアチーム勉強会	4回																																																							
救急症例研修会	5回																																																							
NST研修会	8回																																																							
院内感染研修会	30回																																																							
計	73回																																																							

(3) 医療の標準化の推進

中期目標 ア 法人内の医療系と事務系を統合した先進的な統合情報システムを構築することにより，医療の質の向上，さらには患者サービスの向上を図ること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
ア 総合情報システムを整備し，市民病院とせのお病院のカルテ（患者情報）を一元管理することで，両病院での重複管理や重複投資を防止し，経営の効率化はもとより，カルテ共有による医療の質や患者サービスの向上を促進する。	ア 医療の質や患者サービス向上のため，総合情報システムを整備し，市民病院とせのお病院の情報を一元管理することにより，経営の効率化を図る。	<p>ア 新市民病院のネットワークインフラとして他の自治体病院ではほとんど見られない医療系，情報系，事務系の統合LANの構築に成功した。このことにより将来IT医療の充実を検討する場合，物理的工事をほとんど行うことなく大方設定変更のみ対応できる柔軟性，拡張性，経済性が極めて高く，職員の負担が大幅に軽減されるネットワークインフラを実現した。LAN回線，WAN回線の冗長化も実現しており，極めて安定性の高いものとなった。</p> <p>情報系，事務系システムは完全にせのお病院と一元管理化しており，これについてもコストと職員負担の大幅軽減に成功した。</p> <p>岡山市市内LANからの完全独立にも成功した。せのお病院の電子カルテ化については，同院の医療職が減少していることに伴う費用対効果を考慮し，今後の検討方針とした。</p>	<b>B</b>		

中期目標		イ 客観的な根拠に基づく個々の患者への最適な医療を提供するとともに、クリニカルパスの充実と活用による医療の標準化に取り組むこと。															
中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価													
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等												
<p>イ 科学的な根拠に基づく医療（EBM）を実践するため、クリニカルパス委員会を定期的に開催し、主要な傷病へクリニカルパスを適用することにより、大多数の患者に適用される医療の標準化を促進する。また、適用しているクリニカルパスについてバリエーション（予想されたプロセスと異なる経過や結果）分析を行い、医療の質の改善や向上に取り組む。</p> <p>さらに、こうした取組みの成果を医療の質の指標（QI：クオリティインディケーター）という形で開示していく。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成29年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クリニカルパス種類数</td> <td>63</td> <td>89</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成24年度実績	平成29年度目標	クリニカルパス種類数	63	89	<p>イ 科学的な根拠に基づく医療（EBM）を実践し、医療の標準化を促進するため、クリニカルパス委員会を定期的に開催し、主要な傷病のクリニカルパスを作成する。</p> <p>適用しているクリニカルパスについてバリエーション（予想されたプロセスと異なる経過や結果）分析を行う。</p> <p>医療の質の指標（QI：クオリティインディケーター）とする項目について検討する。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成26年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クリニカルパス種類数</td> <td>63</td> <td>72</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成24年度実績	平成26年度目標	クリニカルパス種類数	63	72	<p>イ DPCを中心にした新しい医療体系に即したクリニカルパスへの見直しを進めており、毎月1回、クリニカルパス委員会を開催し、各科で主要な疾患のクリニカルパス作成を進めている。年間を通じて改訂した結果、平成26年度は新たに26疾患のクリニカルパスを作成し種類数は合計で <b>89（目標値：72, 89 疾患中使用実件数：89, 使用延べ件数：148）</b> となり、目標を達成できた。</p> <p>バリエーション分析を行うためには、そのもととなる、アウトカムの整備が不可欠である。現在、日本クリニカルパス学会から出ている、ベーシック・アウトカムマスターの導入を進めている。バリエーション登録などクリニカルパスの使用マニュアルも今後作成する予定である。</p> <p>QIについては、クリニカルパスを重要視し、クリニカルパスの種類数増やし、クリニカルパスの統計機能を確立し、使用率の算定方法の検討を進めていく。</p>	A		
項目	平成24年度実績	平成29年度目標															
クリニカルパス種類数	63	89															
項目	平成24年度実績	平成26年度目標															
クリニカルパス種類数	63	72															

(4) 調査・研究の実施

中期目標 医療に関する調査や臨床研究，治験を推進する体制を整備し，積極的に取り組むこと。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
他の医療機関との共同研究を含め，新しい治療法の開発等に貢献する臨床試験や治験を積極的に推進し，その成果をもとに学会発表や研究論文として発表する。	他の医療機関との共同研究を含め，新しい治療法の開発等に貢献する臨床試験や治験を積極的に推進し，その成果をもとに学会発表や研究論文として発表する。	<p>臨床試験については新しい治療や薬剤を中心に計 10 件の審査を倫理委員会で行った。治験については継続中のもの 4 件，新規 5 件について計 5 回の治験審査委員会を開催して審議を行った。</p> <p>その他新薬の販売後調査にも積極的に 39 件（新規 7 件，継続 32 件）参加した。学会発表も十分行っている。論文発表の充実が望ましいが，一定以上のレベルには到達できた。</p>	A		

## 3 市民・患者サービスの向上

## (1) 患者中心の医療の提供

中期目標	ア 全ての患者の権利と人格を尊重し、患者の視点に立った質の高い医療を提供すること。 イ 患者との信頼関係の構築に努め、患者への十分な説明と同意のもとに医療を提供すること。							
	中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価			
			評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等		
ア 全ての患者の権利と人格を尊重し、患者の視点に立った質の高い医療を提供するため、患者への十分な説明と同意のもとに医療を提供するインフォームドコンセントを徹底するとともに、セカンドオピニオンの相談に適切に対応する。また、患者との信頼関係構築のため、患者側と医療機関側の対話の橋渡しをする院内医療メディエーターの導入の準備を進めるなど、医療相談窓口機能を強化する。	ア 全ての患者の権利と人格を尊重し、患者の視点に立った質の高い医療を提供するため、患者への十分な説明と同意のもとに医療を提供するインフォームドコンセントを徹底するとともに、セカンドオピニオンの相談に適切に対応する。  院内の医療相談窓口機能について検討する。	ア 患者サポート体制として、院内のどこでもいつでも相談があれば対応している。相談の窓口としては、患者相談室、がん相談支援センターがあり、各相談を受けている。相談室のメンバーは、医療安全管理者も含め多職種で週1回カンファレンスを行い、委員会等を通じて院内に周知している。また、患者の希望があれば他院へのセカンドオピニオン外来へとつないでおり、当院もセカンドオピニオン外来の受け入れを行っている	<table border="1"> <tr> <td>平成26年度実績</td> <td>3件</td> </tr> </table>	平成26年度実績	3件	B		
平成26年度実績	3件							
			また、「保健」「医療」「福祉」「介護」サービスの総合相談・情報提供窓口である岡山市地域ケア総合推進センターを岡山市の出先機関として院内設置に向けて準備した。					

<b>中期目標</b>	ウ 患者満足度調査による患者ニーズの把握及び改善などにより医療の質の向上を図ること。
-------------	--

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価																							
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																						
<p>イ 患者満足度調査の実施や投書箱の設置などにより患者ニーズを速やかに把握し、改善に向けて取り組むことで医療の質の向上を図る。また、こうした患者満足度の分析結果や向上に向けた対策について公表することにより、透明性を確保し、患者との信頼関係を築く。</p> <p><b>【目標値】</b></p> <table border="1"> <tr> <td>項目</td> <td>平成29年度目標</td> </tr> <tr> <td>患者満足度調査結果(満足+やや満足)</td> <td>80 %</td> </tr> </table> <p>※〔参考〕平成24年度患者アンケート実績(調査内容が異なる。) 外来 74.1点, 入院 78.9点</p>	項目	平成29年度目標	患者満足度調査結果(満足+やや満足)	80 %	<p>イ 患者満足度調査について、入院患者に対する退院時アンケートの実施や投書箱の意見から、患者ニーズの把握及び改善に取り組む。</p> <p><b>【目標値】</b></p> <table border="1"> <tr> <td>項目</td> <td>平成26年度目標</td> </tr> <tr> <td>患者満足度調査結果(満足+やや満足)</td> <td>75 %</td> </tr> </table>	項目	平成26年度目標	患者満足度調査結果(満足+やや満足)	75 %	<p>イ ・入院患者アンケート</p> <p>第1回 7月14日～7月20日</p> <table border="1"> <tr> <td>回収数</td> <td>満足+やや満足</td> </tr> <tr> <td>45名</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>第2回 1月19日～2月1日</p> <table border="1"> <tr> <td>回収数</td> <td>満足+やや満足</td> </tr> <tr> <td>87名</td> <td>97.3%</td> </tr> </table> <p>・外来患者アンケート</p> <p>9月8日～9月12日</p> <table border="1"> <tr> <td>回収数</td> <td>満足+やや満足</td> </tr> <tr> <td>138名</td> <td>89.1%</td> </tr> </table> <p>・報告カード</p> <p>患者(家族)からの意見、苦情等</p> <table border="1"> <tr> <td>報告件数</td> <td>34件</td> </tr> </table> <p>アンケート・報告内容は理事長他へ報告し、院内周知が必要な案件については、院内回覧を行った。</p> <p>個別対応が必要な案件については、担当部署への連絡を行い、周知・対応した。</p>	回収数	満足+やや満足	45名	100%	回収数	満足+やや満足	87名	97.3%	回収数	満足+やや満足	138名	89.1%	報告件数	34件	<b>A</b>		
項目	平成29年度目標																										
患者満足度調査結果(満足+やや満足)	80 %																										
項目	平成26年度目標																										
患者満足度調査結果(満足+やや満足)	75 %																										
回収数	満足+やや満足																										
45名	100%																										
回収数	満足+やや満足																										
87名	97.3%																										
回収数	満足+やや満足																										
138名	89.1%																										
報告件数	34件																										

中期目標		エ 医療を提供した結果、患者やその家族との紛争が生じた場合には、適切な紛争解決の方法を確保すること。			
中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
ウ 医療を提供した結果、患者やその家族との紛争が生じた場合には、医療ADRなどの裁判外紛争解決システムを利用し、円滑かつ円満な解決に努める。	ウ 医療を提供した結果、患者やその家族との紛争が生じた場合には、医療ADRなどの裁判外紛争解決システムを利用し、円滑かつ円満な解決に努める。	ウ 医師賠償責任保険会社のセカンドオピニオン、顧問弁護士等による迅速な対応により円滑かつ円満な解決を行なっている。	A		

(2) 職員の接遇向上

中期目標

患者やその家族、市民から信頼を得られるように職員の意識を高め、接遇の向上に努めること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
患者満足度調査における接遇項目の評価から問題点・課題を抽出し、職員の接遇向上のための研修会を計画的に開催することにより患者に対する接遇向上に努める。	患者満足度調査における接遇項目の評価から問題点・課題を抽出し、職員の接遇向上のための研修会を計画的に開催する。	<p>例年はCS・ES委員会で職員全員参加の接遇研修を実施していたが、独法化に伴う独自システムの構築により会議室をサーバ室に転用するなど場所もない状態の中で以下のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月 2日 8時30分～12時 新人研修（接遇・社会人として）</li> <li>・8月29日 14時30分～（1時間） 接遇研修（金田病院 コンシェルジュ 講師：細田氏）</li> </ul> <p>また、平成26年度は日本病院評価機構の機能評価を11月に受けたが、接遇を含めて受審しようということで、外部講師による研修ではなく、機能評価受審への対応の中で職員の接遇意識を高めていった。その結果、患者サービスの質向上に係る取り組みについて評価できるとされ、患者の意思を尊重した医療の項目について全てA評価を受けた。</p>	A		

## (3) 市民や患者にわかりやすい情報発信

## 中期目標

市立病院の役割や機能に加え、疾病予防や健康に関する情報等、市民や患者にわかりやすい情報発信に積極的に取り組むこと。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>患者やその家族、市民に向けて、病院の役割・機能、診療実績、専門医の紹介等の診療情報、財務諸表等の経営情報、疾病予防や健康に関する情報等についてホームページや広報誌等を活用してわかりやすく発信する。</p>	<p>患者やその家族、市民に向けて、病院の役割・機能、診療実績、専門医の紹介等の診療情報、財務諸表等の経営情報、疾病予防や健康に関する情報等についてホームページや広報誌等を活用してわかりやすく発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページにて、市民に対しての教室・講座の情報を定期的に更新し正確な情報を掲載した。具体的には、糖尿病教室、リウマチ教室、肝臓病教室、「いきいき健康支援室 市民ホール」についてお知らせするページを作成、毎月更新した。年2回開催される市民公開講座についても情報を掲載し広く参加を呼びかけた。</li> <li>・医師の紹介、科紹介のページにて専門とする疾患の情報を掲載した。具体的には、医師個人のプロフィール（出身大学、職歴、専門領域、取得している資格）を、掲載科の紹介では、科の特色、診療内容について、受診する際の参考となるよう掲載した。</li> <li>・院内で配布の情報誌を掲載し来院できない方にも情報提供した。具体的には、広報誌「病院だより」を発刊と同時にWebで閲覧できるように掲載した。（年3回）</li> <li>・患者に対して、院内情報表示システムに、疾患（糖尿病、心房細動・脳梗塞など）に関する動画、救命措置に関する動画などを配信、また、院内行事のお知らせ、季節で流行する疾患の予防のお知らせなども配信した。具体的には、外来待合室</li> </ul>	B		

		<p>に設置していた、ディスプレイ（院内情報表示システム）に院内行事の開催のお知らせ、季節ごとに病気予防のための啓蒙ポスター、そのときどきの患者さん向け情報（例.インフルエンザ予防接種の受付開始、レディオ MOMO の当院職員の放送予定など）、10分ほどの病気に関する動画（糖尿病、心房細動・脳梗塞など）を繰り返し配信した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レディオMOMO（FMラジオ）で毎月1回、医師、コメディカル職員などが出演し、健康教育や病気の知識に関する放送を行っている。</li> <li>・経営情報、疾病予防に関する情報については、十分な情報発信ができなかった。具体的には、ホームページで、手術件数、症例数など医師の技量を見る目安とされているようで、これらの数値を公開している病院も数多く見受けるが、現在当院では全く公開していない。</li> </ul>		
--	--	--	--	--

## 4 地域医療ネットワークの推進

## (1) 地域医療連携の推進

## 中期目標

- ア 岡山大学をはじめとした急性期病院間での適切な役割分担を進めるとともに、回復期・慢性期の医療機関等、保健医療福祉関係機関との連携及び協力体制の充実を図ることにより、地域医療ネットワークの確立に努めること。
- イ 地域医療連携を円滑に行っていくため、地域の医療機関との診療情報の共有化を図ること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価																																																	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																																																
<p>急性期から回復期、慢性期、在宅まで切れ目のない医療を市民へ提供するため、岡山大学をはじめとした地域の各医療機関との適切な役割分担のもと、病院間、病院と診療所間の連携を促進するとともに、保健医療福祉関係機関との連携及び協力体制の充実を図る。</p> <p>市民病院は、脳卒中、大腿骨頸部骨折など地域連携クリティカルパスの適用を推進するとともに、医療ネットワーク岡山（晴れやかネット）への参加によるカルテ情報の共有などにより、地域医療機関との連携をより一層推進する。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">市民病院</th> <th colspan="2">せのお病院</th> </tr> <tr> <th>平成24年度実績</th> <th>平成29年度目標</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成29年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>42.7%</td> <td>43.0%</td> <td>22.1%</td> <td>28.0%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>62.4%</td> <td>63.0%</td> <td>-</td> <td>34.0%</td> </tr> <tr> <td>地域連携クリティカルパス適用件数</td> <td>193件</td> <td>200件</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	市民病院		せのお病院		平成24年度実績	平成29年度目標	平成24年度実績	平成29年度目標	紹介率	42.7%	43.0%	22.1%	28.0%	逆紹介率	62.4%	63.0%	-	34.0%	地域連携クリティカルパス適用件数	193件	200件			<p>急性期から回復期、慢性期、在宅まで切れ目のない医療を市民へ提供するため、岡山大学をはじめとした地域の各医療機関との適切な役割分担のもと、病院間、病院と診療所間の連携を促進するとともに、保健医療福祉関係機関との連携及び協力体制の充実を図る。</p> <p>市民病院は、脳卒中、大腿骨頸部骨折など地域連携クリティカルパスの適用を推進するとともに、医療ネットワーク岡山（晴れやかネット）への参加による診療情報の開示及び閲覧により、地域医療機関との連携をより一層推進する。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">市民病院</th> <th colspan="2">せのお病院</th> </tr> <tr> <th>平成24年度実績</th> <th>平成26年度目標</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成26年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>42.7%</td> <td>地域医療支援病院の要件を満たすものとする。</td> <td>22.1%</td> <td>24.0%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>62.4%</td> <td></td> <td>-</td> <td>30.0%</td> </tr> <tr> <td>地域連携クリティカルパス適用件数</td> <td>193件</td> <td>200件</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	市民病院		せのお病院		平成24年度実績	平成26年度目標	平成24年度実績	平成26年度目標	紹介率	42.7%	地域医療支援病院の要件を満たすものとする。	22.1%	24.0%	逆紹介率	62.4%		-	30.0%	地域連携クリティカルパス適用件数	193件	200件			<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療支援病院として、地域の保健・医療・福祉情報の把握に努め、患者さんへかかりつけ医（2人主治医制）の周知を行い、地域の医療機関へ訪問・挨拶を行うことにより、紹介・逆紹介の推進を図っている（平成26年度：紹介率42.1%、逆紹介率109.3%）。</li> <li>・退院支援については、退院支援システムがあり、地域への連携が必要な事例や困難事例などは地域医療連携室 MSW が看護師やケアマネージャー等多職種協働で退院支援を行い、地域へとつなげている。</li> <li>・脳卒中、大腿骨頸部骨折などについては、地域連携パスを運用し（平成26年度：248件（目標値：200回））、必要時には退院前カンファレンスを行い、地域へとつないでいる。また、各地域での連携ネットワークに参加し顔の見える関係づくりを行うとともに、「晴れやかネット」の開示及び閲覧施設として、患者さんの診療情報を地域の医療機関と共有し診療に役立てることによって、地域の医療機関との連携を図っている。</li> </ul> <p>【平成26年度：せのお病院】  <u>紹介率31.8%（目標値：24.0%）</u>  <u>逆紹介率44.2%（目標値：30.0%）</u></p>	B		
項目		市民病院		せのお病院																																																	
	平成24年度実績	平成29年度目標	平成24年度実績	平成29年度目標																																																	
紹介率	42.7%	43.0%	22.1%	28.0%																																																	
逆紹介率	62.4%	63.0%	-	34.0%																																																	
地域連携クリティカルパス適用件数	193件	200件																																																			
項目	市民病院		せのお病院																																																		
	平成24年度実績	平成26年度目標	平成24年度実績	平成26年度目標																																																	
紹介率	42.7%	地域医療支援病院の要件を満たすものとする。	22.1%	24.0%																																																	
逆紹介率	62.4%		-	30.0%																																																	
地域連携クリティカルパス適用件数	193件	200件																																																			

(2) 地域医療への支援

中期目標	ア 地域医療支援病院として高度医療機器等の共同利用や開放病床の利用を促進するなど地域の医療機関を支援し、在宅医療の推進に向けた取り組みを実施すること。
------	---

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価																																																		
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																																																	
<p>ア オープンカンファレンスを定期的 に開催することにより、地域の医療 機関を支援し、在宅医療の推進に向 けた顔の見える関係の構築を推進す る。また、市民病院は、地域医療支 援病院として地域の医療機関に対す る開放病床や検査機器等の共同利用 を促進する。</p> <p><b>【目標値】</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">市民病院</th> <th colspan="2">せのお病院</th> </tr> <tr> <th>平成24年度 実績</th> <th>平成29年度 目標</th> <th>平成24年度 実績</th> <th>平成29年度 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域医療機関等の参 加する講演会開催数</td> <td>14回</td> <td>29回</td> <td>3回</td> <td>4回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	市民病院		せのお病院		平成24年度 実績	平成29年度 目標	平成24年度 実績	平成29年度 目標	地域医療機関等の参 加する講演会開催数	14回	29回	3回	4回	<p>ア 地域の医療機関を支援し、在宅医 療の推進に向けた顔の見える関係の 構築を推進するため、オープンカン ファレンスを開催する。</p> <p>市民病院は、地域医療支援病院と して地域の医療機関に対する開放 病床や検査機器等の共同利用を促 進する。</p> <p><b>【目標値】</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">市民病院</th> <th colspan="2">せのお病院</th> </tr> <tr> <th>平成24年度 実績</th> <th>平成26年度 目標</th> <th>平成24年度 実績</th> <th>平成26年度 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域医療機関等の参 加する講演会開催数</td> <td>14回</td> <td>20回</td> <td>3回</td> <td>4回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	市民病院		せのお病院		平成24年度 実績	平成26年度 目標	平成24年度 実績	平成26年度 目標	地域医療機関等の参 加する講演会開催数	14回	20回	3回	4回	<p>ア 病診連携研修会やがんサーボード等 の各研修会を地域へ発信するなど、顔の 見える関係づくりを行い、在宅の推進に 役立てている。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度 目標値</th> <th>26年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民病院</td> <td>20回</td> <td>26回</td> </tr> <tr> <td>せのお病院</td> <td>4回</td> <td>3回</td> </tr> </tbody> </table> <p>(市民病院内訳)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>講演会</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民病院主催</td> <td>17回</td> </tr> <tr> <td>3S会</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>CPC(臨床病理検討会)</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>救急症例検討会</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>26回</td> </tr> </tbody> </table> <p>加えて、開業医が自院のPCで市民病 院の診療予約をすることができるカル ナシステム導入に向けて、自院で勉強会 を重ね、市内の各地域の開業医を直接訪 問して周知していった。</p> <p>また、地域医療支援病院として、CT やMRI等の医療機器の共同利用や開 放病床を積極的に活用することによっ て、地域の医療機関を支援している。</p>		26年度 目標値	26年度 実績	市民病院	20回	26回	せのお病院	4回	3回	講演会	回数	市民病院主催	17回	3S会	3回	CPC(臨床病理検討会)	1回	救急症例検討会	5回	計	26回	<p><b>B</b></p>		
項目		市民病院		せのお病院																																																		
	平成24年度 実績	平成29年度 目標	平成24年度 実績	平成29年度 目標																																																		
地域医療機関等の参 加する講演会開催数	14回	29回	3回	4回																																																		
項目	市民病院		せのお病院																																																			
	平成24年度 実績	平成26年度 目標	平成24年度 実績	平成26年度 目標																																																		
地域医療機関等の参 加する講演会開催数	14回	20回	3回	4回																																																		
	26年度 目標値	26年度 実績																																																				
市民病院	20回	26回																																																				
せのお病院	4回	3回																																																				
講演会	回数																																																					
市民病院主催	17回																																																					
3S会	3回																																																					
CPC(臨床病理検討会)	1回																																																					
救急症例検討会	5回																																																					
計	26回																																																					

		<p>(26年度実績)</p> <p>医療機器共同利用件数 (市民病院)</p> <table border="1"> <tr> <td>C T</td> <td>120 件</td> </tr> <tr> <td>M R I</td> <td>106 件</td> </tr> </table> <p>開放病床利用状況 (市民病院・病床数 8)</p> <table border="1"> <tr> <td>1 か月当たり新入院数</td> <td>3.1 人</td> </tr> <tr> <td>1 日平均患者数</td> <td>2.1 人</td> </tr> </table>	C T	120 件	M R I	106 件	1 か月当たり新入院数	3.1 人	1 日平均患者数	2.1 人			
C T	120 件												
M R I	106 件												
1 か月当たり新入院数	3.1 人												
1 日平均患者数	2.1 人												

中期目標	イ 医師不足の深刻な地域の医療機関へ医師を派遣するなど人的支援に努めること。
------	--

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価									
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
イ 医師不足の深刻な地域の医療機関に対して医師を派遣するなど人的支援に努める。	イ 医師不足の深刻な地域の医療機関に対して医師を派遣するなど人的支援に努める。	イ <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <td>美作市立大原病院</td> <td>毎週土曜日 1名</td> </tr> <tr> <td>湯原温泉病院</td> <td>毎週木曜日 1名</td> </tr> <tr> <td>福渡病院</td> <td>第2, 第4土曜日 1名</td> </tr> <tr> <td>瀬戸内市民病院</td> <td>第3土曜日 1名</td> </tr> </table> <p style="margin-top: 10px;">美作市立大原病院, 湯原温泉病院, 福渡病院の各自治体病院に加えて, 瀬戸内市民病院にも人的支援を開始した。</p> <p>また, 単発ではあるが県北の落合病院にも人的支援を行った。</p>	美作市立大原病院	毎週土曜日 1名	湯原温泉病院	毎週木曜日 1名	福渡病院	第2, 第4土曜日 1名	瀬戸内市民病院	第3土曜日 1名	<b>A</b>		
美作市立大原病院	毎週土曜日 1名												
湯原温泉病院	毎週木曜日 1名												
福渡病院	第2, 第4土曜日 1名												
瀬戸内市民病院	第3土曜日 1名												

## 5 教育及び人材育成

## (1) 教育・人材育成の強化

## 中期目標

ア 地域医療を担う医師等の安定的・継続的確保に貢献するため、岡山地域において医師等の教育機関である岡山大学と共同し、救急専門医の育成を目的とした寄付講座や総合診療医の育成を目的とした連携大学院等を活用した教育・人材育成の強化を図ること。

イ 研修医を積極的に受け入れるとともに、医学生をはじめとする研修生・実習生に対する教育の充実など、医療従事者の育成に努めること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価																																													
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																																												
<p>岡山大学と共同し、市民病院を臨床研究の場として活用する寄付講座による救急専門医の育成、連携大学院での総合診療医の育成など地域医療を担う人材の安定的・継続的確保に貢献する。</p> <p>また、教育研修センターを新たに設置し、専任担当者による院内外の教育・人材育成に関わる業務について一元管理のもと、臨床研修プログラムの改善及び充実を図るなど教育研修体制を整備する。</p> <p>さらに、研修医や医学生に対して日常の診療カンファレンスとは別に研修会を実施するとともに、看護師や救命救急士等の実習生を積極的に受け入れる。</p> <p><b>【目標値】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成29年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応答率</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>研修医・医学生への研修会実施回数</td> <td>-</td> <td>12回</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【関連指標】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成24年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研修医・医学生の満足度調査</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成24年度実績	平成29年度目標	大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応答率	100%	100%	研修医・医学生への研修会実施回数	-	12回	項目	平成24年度実績	研修医・医学生の満足度調査	-	<p>岡山大学と共同し、市民病院を臨床研究の場として活用する寄付講座により地域医療に関する研究教育を行うとともに、市民病院で総合診療を行う医師が、その臨床実績を岡山大学で分析研究する実践総合診療学分野での連携大学院により人材を育成する。</p> <p>教育研修体制の整備について、教育研修センター及び専任担当者の設置について検討する。</p> <p>研修医や医学生に対して日常の診療カンファレンスとは別に研修会を実施するとともに、看護師や救命救急士等の実習生を積極的に受け入れる。</p> <p><b>【目標値】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成26年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応答率</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>研修医・医学生への研修会実施回数</td> <td>-</td> <td>4回</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【関連指標】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成24年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研修医・医学生の満足度調査</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成24年度実績	平成26年度目標	大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応答率	100%	100%	研修医・医学生への研修会実施回数	-	4回	項目	平成24年度実績	研修医・医学生の満足度調査	-	<p>岡山大学との連携は、寄付講座を中心としたERでの研修だけでなく、総合内科、他の診療科まで広く行われている。研修の受け入れは、<b>100% (目標値: 100%)</b> 対応している。岡山大学の学生は、救急科138名、救急科以外36名受け入れた。また、研修医は38名受け入れた。</p> <p>救急救命士の実習について、平成26年度は32名の実習を受け入れた。</p> <p>(内訳)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実習名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就業前教育</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>気管挿管</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>ビデオ喉頭鏡気管挿管</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>再教育</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>前期消防臨床実習</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>後期消防臨床実習</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>臨床実習</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>32人</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成26年度の研修医・医学生への研修会実施回数は<b>10回 (目標値: 4回)</b>。</p>	実習名	人数	就業前教育	2人	気管挿管	5人	ビデオ喉頭鏡気管挿管	4人	再教育	11人	前期消防臨床実習	2人	後期消防臨床実習	2人	臨床実習	6人	計	32人	A		
項目	平成24年度実績	平成29年度目標																																															
大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応答率	100%	100%																																															
研修医・医学生への研修会実施回数	-	12回																																															
項目	平成24年度実績																																																
研修医・医学生の満足度調査	-																																																
項目	平成24年度実績	平成26年度目標																																															
大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応答率	100%	100%																																															
研修医・医学生への研修会実施回数	-	4回																																															
項目	平成24年度実績																																																
研修医・医学生の満足度調査	-																																																
実習名	人数																																																
就業前教育	2人																																																
気管挿管	5人																																																
ビデオ喉頭鏡気管挿管	4人																																																
再教育	11人																																																
前期消防臨床実習	2人																																																
後期消防臨床実習	2人																																																
臨床実習	6人																																																
計	32人																																																

6 保健・医療・福祉連携への貢献  
 (1) 保健医療福祉行政への協力

中期目標	新市民病院内に市が保健・医療・福祉連携に係る総合相談窓口を設置し、同窓口と密接に連携し、退院患者の在宅復帰に向けた支援や医療に係る専門的な相談に対する支援などの役割を担うこと。 また、市の保健医療福祉部門との情報交換などにより連携を推進すること。
------	--

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
新市民病院内に市が設置する保健・医療・福祉連携に係る総合相談窓口と密接に連携し、退院患者の在宅復帰に向けた支援や医療に係る専門的な相談に対して支援する。また、市が主催する保健医療福祉関係団体等との連携会議へ参加するなど市の保健医療福祉部門との連携を推進する。	市が主催する「顔の見えるネットワーク構築会議」など保健医療福祉関係団体等との連携会議へ参加する。	(平成 26 年度実績)		<b>B</b>	
		会議名	出席回数		
		岡山市北区中央地域 コアメンバー会議	4 回		
		在宅医療・介護連携 意見交換会	1 回		
		在宅医療・介護連携 カンファレンス	3 回		

## (2) 疾病予防の取り組み

## 中期目標

市民に対する健康支援講座の開催や健康支援に係る相談など、引き続き市民の疾病予防に向けて取り組むこと。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価											
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等										
市民の健康を守るため、市民に対して健康支援講座を定期的に開催するとともに、健康支援に係る相談に応じるなど引き続き市民の疾病予防に向けて取り組む。	市民に対して健康支援講座を定期的に開催するとともに、健康支援に係る相談に応じる。	<p>市民公開講座を開催し、食事と疾病の関係と重要性についてのお話と健康相談を行った。講座では試食会も行った。 (栄養科で行った講座：2回)</p> <table border="1"> <tr> <td>1回目参加者</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>2回目参加者</td> <td>37名</td> </tr> </table> <p>新病院周囲の公民館を拠点に来年度の市民公開講座の開催の準備を開始した。</p> <p>検食および病院食嗜好調査を行い、病院での食事の質を改善した。 (調査回数：3回)</p> <table border="1"> <tr> <td>1回目実施者数（6月）</td> <td>197人</td> </tr> <tr> <td>2回目実施者数（10月）</td> <td>181人</td> </tr> <tr> <td>3回目実施者数（2月）</td> <td>263人</td> </tr> </table> <p>院外、院内の定期的研修会を行い、医療レベルの向上に努めた。</p> <p>院外患者向けの定期刊行雑誌に疾病の予防や検査の有用性を掲載し、疾病の早期発見・予防に寄与した。</p>	1回目参加者	35名	2回目参加者	37名	1回目実施者数（6月）	197人	2回目実施者数（10月）	181人	3回目実施者数（2月）	263人	A		
1回目参加者	35名														
2回目参加者	37名														
1回目実施者数（6月）	197人														
2回目実施者数（10月）	181人														
3回目実施者数（2月）	263人														

業務運営の改善及び効率化に関する目標と達成するためにとるべき措置

1 業務運営体制の構築

(1) 業務運営体制の構築

中期目標	地方独立行政法人制度の特長を活かし、独立した経営体として、主体性をもって意思決定し、迅速に行動できるよう、理事会を中心とした体制を整備するとともに、職員の病院運営に対する意識の醸成を図るなど自律性を発揮できる効果的な運営体制の構築を図ること。
------	---

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
独立した経営体にふさわしい法人組織を構築するとともに、理事長のリーダーシップのもと、院内委員会等の体制を整備し、情報と権限を一元管理することにより、迅速な意思決定と効率的な運営を行う。また、迅速な情報の伝達・共有を可能にするシステムを確立し、組織として経営企画機能を強化して、経営基盤を構築する。	独立した経営体にふさわしい法人組織を構築するとともに、理事長のリーダーシップのもと、院内委員会等の体制を整備し、情報と権限を一元管理することにより、迅速な意思決定と効率的な運営を行う。また、迅速な情報の伝達・共有を可能にするシステムを確立し、組織として経営企画機能を強化して、経営基盤を構築する。	<p>4月1日の独法成立と同時に新たな運営形態、事務形態で速やかに対応できるように病院のとりまとめ機関として法人本部を設立し、理事長のリーダーシップのもと効率的かつ効果的に機能した。</p> <p>法人本部直下に経営戦略等に係る企画・立案及び調整、経営戦略に基づく経営改善の総合調整、経営計画の策定及び進行管理を担う組織の横断的な経営戦略室を組織した。また、経営戦略室ではコンサルやSPD業者を交えて専門的な視点から管理体制強化、経営計画立案を図ることができた。</p> <p>新病院開院に向けて新たな業務体制（人事計画、配置計画、新組織体制）の準備を行った。</p>	A		

## (2) 多様な人材の確保

中期目標	<p>ア 医師の人材確保 市立病院において提供する医療水準を向上させるため、優秀な医師の確保に努めるとともに、臨床研修医及び後期研修医を育成すること。</p> <p>イ 看護師及び医療技術職員の人材確保 関係教育機関等との連携を強化し、優れた看護師及び医療技術職員の確保に努めること。</p> <p>ウ 事務職員の人材確保及び育成強化 病院運営に関する専門知識や経営感覚が求められることから、必要な人材を確保・育成し、組織としての専門性を高めること。</p> <p>エ 育児支援等による人材確保 育児と業務の両立支援など多様な人材を活用できる体制を確保すること。</p>
------	---

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>医療提供体制の安定化を図り、医療水準を向上させるため、多様で優秀な人材の確保に努める。</p> <p>そのために、法人移行前の定数管理や職員募集の枠組みにとらわれない職員の採用を進め、法人が担うべき医療を提供するために必要な人員を安定的かつ継続的に確保する。</p> <p>医療従事者については、大学等関係教育機関との連携や採用のための広報活動をこれまで以上に強化するとともに、臨床研修医及び後期研修医の育成に取り組む。</p> <p>事務職員については、病院経営に関する知識・経験を有する人材を計画的に採用し、病院経営をより専門的かつ実践的に行える体制を整備する。</p> <p>また、育児支援や職場復帰に関わる制度など職員が働きやすく復帰しやすい環境を整えとともに、退職者の活用など多様な人材を活用できる体制を整備する。</p>	<p>医療提供体制の安定化を図り、医療水準を向上させるため、多様で優秀な人材の確保に努める。</p> <p>医療従事者については、大学等関係教育機関との連携や採用のための広報活動をこれまで以上に強化するとともに、臨床研修医及び後期研修医の育成に取り組む。</p> <p>事務職員については、病院経営に関する知識・経験を有する人材を計画的に採用する。</p> <p>育児支援や職場復帰に関わる制度など職員が働きやすく復帰しやすい環境を整えとともに、退職者の活用など多様な人材を活用できる体制を整備する。</p>	<p>岡山大学等との連携を図ったこともあり、平成 26 年度の初期研修医のマッチングでは 5 名の採用が決定し、後期研修医においても選考の結果 8 名の優秀な人材の採用が決定した。</p> <p>看護師、医療技術員及び事務職員について、採用試験時には多数の応募者があったため、新卒者、経験者の中から優れた人材の確保が出来たと思われる。(看護師、医療技術員、事務職員の採用者は合計で 98 名である。)</p> <p>育児支援及び職場復帰支援について、育児短時間勤務、夜間勤務免除及び時間外勤務の制限といったもののほかに、新病院移転に向けて院内保育所設置の準備を行った。企画提案による業者選定、施設の整備、物品の準備、保護者面談等 27 年度に向けての準備を計画的に行った。</p> <p>定年退職者の再雇用について積極的に見直しを行った。</p>	A		

(3) 外部評価等の活用

中期目標 病院機能評価等の評価項目に基づき業務運営の改善に努めるとともに、実効性の高い監査を実施し、監査結果に基づき必要な見直しを行うこと。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価を継続受審し、評価結果に基づき、業務運営の改善に向けて取り組む。また、監事による監査や内部監査の実施により内部統制を強化する。</p>	<p>公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価を継続受審し、評価結果に基づき、業務運営の改善に向けて取り組む。 監事による監査の実施や内部監査の方法について検討する。</p>	<p>平成26年11月に評価基準(Ver1.0)を受審し認定された。評価結果として改善要望事項の有無、指摘数が大きな焦点となるが、改善要望事項の該当項目なしという評価結果を受けた。 平成27年1月28日に監事による会計監査、業務監査を実施した。いくつか課題を指摘されると同時に改善案もいただき、当該改善案に沿って改善を行った。</p>	A		

## 2 職員のやりがいと満足度の向上

## (1) 研修制度の充実及び資格取得への支援

中期目標	<p>医学の進歩による医療の高度化・専門化に対応して、常に高度かつ標準化した医療を提供できるよう、専門性及び医療技術の向上を図るため、医療スタッフの研修等を充実すること。</p> <p>医療スタッフの職務能力の高度化・専門化を図るため、資格取得等に対する支援を充実すること。</p>
------	---

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価																																																					
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																																																				
<p>教育研修センター管理のもと、専門性の向上に向けた研修制度の充実に加えて、職員の資格取得を奨励する制度を充実する。また、臨床研修指導医、専門医、認定医、認定看護師及び認定薬剤師などの資格取得を促進し、質の高い医療の提供体制を構築する。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成29年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床研修指導医数</td> <td>24 人</td> <td>40 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【関連指標】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成24年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床研修指導医割合</td> <td>41.4 %</td> </tr> <tr> <td>専門医数</td> <td>79 人</td> </tr> <tr> <td>認定医数</td> <td>56 人</td> </tr> <tr> <td>認定看護師数</td> <td>7 分野 8 人</td> </tr> <tr> <td>認定薬剤師数</td> <td>5 人</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成24年度実績	平成29年度目標	臨床研修指導医数	24 人	40 人	項目	平成24年度実績	臨床研修指導医割合	41.4 %	専門医数	79 人	認定医数	56 人	認定看護師数	7 分野 8 人	認定薬剤師数	5 人	<p>専門性の向上に向けた研修制度や職員の資格取得を奨励する制度について検討する。</p> <p>臨床研修指導医、専門医、認定医、認定看護師及び認定薬剤師などの資格取得を促進する。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成26年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床研修指導医数</td> <td>24 人</td> <td>29 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【関連指標】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成24年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床研修指導医割合</td> <td>41.4 %</td> </tr> <tr> <td>専門医数</td> <td>79 人</td> </tr> <tr> <td>認定医数</td> <td>56 人</td> </tr> <tr> <td>認定看護師数</td> <td>7 分野 8 人</td> </tr> <tr> <td>認定薬剤師数</td> <td>5 人</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成24年度実績	平成26年度目標	臨床研修指導医数	24 人	29 人	項目	平成24年度実績	臨床研修指導医割合	41.4 %	専門医数	79 人	認定医数	56 人	認定看護師数	7 分野 8 人	認定薬剤師数	5 人	<p>資格取得の状況について、現時点で下記のとおりである。引き続き支援については、検討していく。</p> <p>(平成 26 年度目標値に対する実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床研修指導医数</td> <td>29 人</td> <td>30 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(平成 26 年度関連指標に対する実績)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>臨床研修指導医割合</td> <td>52.6%</td> </tr> <tr> <td>専門医</td> <td>91 人</td> </tr> <tr> <td>認定医</td> <td>54 人</td> </tr> <tr> <td>認定看護師数</td> <td>9 分野 11 人</td> </tr> <tr> <td>認定薬剤師数</td> <td>5 人</td> </tr> </tbody> </table>		目標値	実績	臨床研修指導医数	29 人	30 人	臨床研修指導医割合	52.6%	専門医	91 人	認定医	54 人	認定看護師数	9 分野 11 人	認定薬剤師数	5 人	A		
項目	平成24年度実績	平成29年度目標																																																							
臨床研修指導医数	24 人	40 人																																																							
項目	平成24年度実績																																																								
臨床研修指導医割合	41.4 %																																																								
専門医数	79 人																																																								
認定医数	56 人																																																								
認定看護師数	7 分野 8 人																																																								
認定薬剤師数	5 人																																																								
項目	平成24年度実績	平成26年度目標																																																							
臨床研修指導医数	24 人	29 人																																																							
項目	平成24年度実績																																																								
臨床研修指導医割合	41.4 %																																																								
専門医数	79 人																																																								
認定医数	56 人																																																								
認定看護師数	7 分野 8 人																																																								
認定薬剤師数	5 人																																																								
	目標値	実績																																																							
臨床研修指導医数	29 人	30 人																																																							
臨床研修指導医割合	52.6%																																																								
専門医	91 人																																																								
認定医	54 人																																																								
認定看護師数	9 分野 11 人																																																								
認定薬剤師数	5 人																																																								

(2) 適正な人事評価制度

中期目標	医療組織に適した職員の業績や能力，経験や職責などを反映した公正かつ適正な人事評価制度を構築し，適正な評価により職員のモチベーションを高めるように努めること。
------	--

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>職員の努力と成果が直接報われるような，昇任・昇格制度にとらわれない柔軟な人事評価制度やインセンティブ等の表彰制度を導入し，職員の仕事に対するモチベーション向上を図る。</p>	<p>職員の努力と成果が直接報われるような，昇任・昇格制度にとらわれない柔軟な人事評価制度やインセンティブ等の表彰制度について検討する。</p>	<p>法人職員表彰規程に基づき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・永年（25年）勤続者表彰 8名</li> <li>・15年勤続者表彰 4名</li> </ul> <p>の表彰を行った。</p> <p>両表彰とも優秀な成績で勤務したという条件に基づき表彰したが，病院というのはほとんどの職員が専門職であり，どこでも働ける職種により構成されている。そういった入れ替わりしやすい職場において，15年，25年と優秀に勤め続けた者を表彰することにより，モチベーション向上を図った。</p> <p>人事評価制度については，独法としての構築を検討しようとしているが，現時点では岡山市方式を踏襲して，自己評価，第一評価者，第二評価者による評価を行い，1月1日の昇給に反映させている。</p>	<b>B</b>		

## (3) 職場環境の整備

中期目標					
職員のワークライフバランスや職場の安全確保、コミュニケーションの活性化などを通じて職場環境の改善を図り、働きやすく働きがいのある病院づくりに努めること。					
中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
医療スタッフが診療業務に専念できる職場環境を整備する。具体的には、新市民病院に院内保育を整備して、職員が安心して子育てし、働き続けることができる環境を整える。また、ワークライフバランスを取りやすい多様な勤務形態を導入する。さらに、職員満足度調査により課題を明確にして、職員満足度の向上に向けた環境改善活動を定期的実施する。	医療スタッフが診療業務に専念できるよう、ワークライフバランスを取りやすい多様な勤務形態を導入するとともに、職員満足度調査により課題を明確にして、職員満足度の向上に向けた環境改善活動を実施する。	職員アンケート（721人に配布） 9月29日～10月9日 回収564名 アンケート結果について理事長他へ報告するとともに医師・看護師の職務軽減を図る項目について、各部署からの意見をまとめ、担当部署間で協議中である。 看護部にて3交代をしている看護師、准看護師に対して多様な勤務形態に関してのアンケート調査を行った（8月18日～25日）。215人を対象に行い、回収率92%であった。結果は、賛成16.3%、反対52.1%であり、今の勤務形態を続行することとなった。	A		

財務内容の改善に関する目標と達成するためにとるべき措置

1 持続可能な経営基盤の確立

中期目標	<p>救急、感染症など公的に必要とされる医療を安定的に提供していくため、地方独立行政法人の性質上能率的な経営を行ってもなおその事業の経営に伴う収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費等については運営費負担金として支出することとするが、一般会計の負担であることから、市民にわかりやすいように内訳や考え方を明らかにした上で適切に中期計画へ反映すること。さらに、経営の効率化や健全化に向けた取り組みを進めるなど抜本的な経営改革により、市立病院の役割を果たせる安定した経営基盤を確保すること。</p>
------	---

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>運営費負担金は、公的に必要とされる医療を安定的に提供することによる不採算経費等として、救急医療、感染症医療、小児医療など毎年度総務省が発出する「地方公営企業繰出金について」に準じた考え方により算出する。なお、建設改良費及び長期借入金の元利償還金に充当する運営費負担金については、経常費助成のための運営費負担金とする。</p> <p>中期計画を踏まえて策定する年度計画では、各診療科・部門の行動計画にまで落とし込み、数値目標だけでなく、具体的な活動、職員的能力開発等プロセスや体制も重視しながら実行管理を行う。実行管理には、計画を策定し(Plan)、計画に沿って実践し(Do)、進捗を評価し(Check)、必要な改善を練る(Action)というPDCAサイクルを用い、常に改善を志向する経営体質を確立する。</p>	<p>運営費負担金は、公的に必要とされる医療を安定的に提供することによる不採算経費等として、救急医療、感染症医療、小児医療など総務省が発出する「地方公営企業繰出金について」に準じた考え方により算出する。</p> <p>建設改良費及び長期借入金の元利償還金に充当する運営費負担金については、経常費助成のための運営費負担金とする。</p> <p>各診療科・部門を対象とした行動計画の作成による目標管理制度を導入するため、目標達成に向けた具体的な活動、職員的能力開発等プロセスや体制も重視しながらPDCAサイクルによる経営体質を確立できる仕組みを構築する。</p>	<p>運営費負担金については、総務省の基準及び地独法人移行時の市との取り決めに従い、「市民負担を増やさない」という考えに基づき鋭意取り組んできた。</p> <p>経営基盤確立のためには、まずは、職員が経営状況を知り、理解することが重要である。そのために、毎月の運営会議(法人の最高意思決定会議)において、最新の経営指標を職員に伝え、計画目標値に対し、達成状況を共有し、今後への課題を提示している。独法化のメリットであるPDCAサイクルを最大限活用するため、日常的に職員一丸となって数値管理を徹底するよう取り組んできた。</p> <p>行動計画の評価手法としてBSC(Balanced Scorecard: バランスド・スコアカード)を活用し、部門別に明確な目標値による評価が行えるような仕組みを構築中である。</p>	A		

## 2 収入の確保及び費用の節減

## 中期目標

効率的な病床利用や高度医療機器の稼働率向上に努め、社会情勢の変化や医療保険制度の変革への的確な対応などにより収入を確保するとともに、給与費比率の適正化や診療材料など調達コストの削減など、費用の節減及び合理化を図ること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価																																																																					
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																																																																				
<p>各部門が収益目標を持ち、目標達成のための取組みの進捗状況を管理・評価する目標管理制度の導入、DPCによる診療情報の分析等経営管理手法の積極的な活用により、常に適正な収益を確保できる体制を構築する。また、病棟ごとの病床稼働率や平均在院日数の適正水準の維持を前提に、適正なコストでの運営に向け、節減・合理化を図るよう努める。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">市民病院</th> <th colspan="2">せのお病院</th> </tr> <tr> <th>平成24年度実績</th> <th>平成29年度目標</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成29年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>76.6%</td> <td>85.0%</td> <td>72.2%</td> <td>83.1%</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>15.5日</td> <td>14.0日</td> <td>17.9日</td> <td>19.7日</td> </tr> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>103.4%</td> <td>99.9%</td> <td>94.5%</td> <td>108.3%</td> </tr> <tr> <td>医療収支比率</td> <td>95.3%</td> <td>91.5%</td> <td>82.1%</td> <td>88.2%</td> </tr> <tr> <td>給与費比率</td> <td>58.9%</td> <td>54.0%</td> <td>75.0%</td> <td>70.6%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	市民病院		せのお病院		平成24年度実績	平成29年度目標	平成24年度実績	平成29年度目標	病床稼働率	76.6%	85.0%	72.2%	83.1%	平均在院日数	15.5日	14.0日	17.9日	19.7日	経常収支比率	103.4%	99.9%	94.5%	108.3%	医療収支比率	95.3%	91.5%	82.1%	88.2%	給与費比率	58.9%	54.0%	75.0%	70.6%	<p>1の目標管理制度の導入の検討に加え、行動計画の進捗管理を行うため、DPCデータ等を活用して診療情報分析を行い、その結果を各診療科・部門へ反映する手法について検討する。また、部門別原価計算などの管理手法を用い、各診療科・部門の実績を評価する環境の構築に向けて準備を進める。</p> <p>病床稼働率や平均在院日数の適正水準の維持を前提に、予算の弾力的な運用や多様な契約手法の導入など、地方独立行政法人のメリットを生かし医療サービスの質の維持・向上を図りながら、費用の節減・合理化を図るよう努める。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">市民病院</th> <th colspan="2">せのお病院</th> </tr> <tr> <th>平成24年度実績</th> <th>平成26年度目標</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成26年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>76.6%</td> <td>76.6%</td> <td>72.2%</td> <td>81.7%</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>15.5日</td> <td>15.5日</td> <td>17.9日</td> <td>20.5日</td> </tr> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>103.4%</td> <td>95.1%</td> <td>94.5%</td> <td>110.2%</td> </tr> <tr> <td>医療収支比率</td> <td>95.3%</td> <td>85.4%</td> <td>82.1%</td> <td>88.2%</td> </tr> <tr> <td>給与費比率</td> <td>58.9%</td> <td>61.9%</td> <td>75.0%</td> <td>71.9%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	市民病院		せのお病院		平成24年度実績	平成26年度目標	平成24年度実績	平成26年度目標	病床稼働率	76.6%	76.6%	72.2%	81.7%	平均在院日数	15.5日	15.5日	17.9日	20.5日	経常収支比率	103.4%	95.1%	94.5%	110.2%	医療収支比率	95.3%	85.4%	82.1%	88.2%	給与費比率	58.9%	61.9%	75.0%	71.9%	<p>DPCデータによる分析及びコンサルタントを業者へ委託して実施（平成26年度は3部署）。次年度以降は年間契約により多部署の分析やコンサルタントの委託を予定。</p> <p>市民病院においては、次年度導入のSPDへ向けて事前にSPD業者により業務分析を実施した。薬剤部においては、ジェネリックの使用割合を更に増やせるように管理・指導體制を強化した。</p> <p>市民病院においては、移転後の新病院での体制強化や他の診療機関等との連携強化を図るべく医師と地域医療連携室が協力して移転後の地域を中心として診療機関の訪問を実施した。</p> <p>せのお病院においては、医師の減員等により病床稼働率が低下しているが、10月からは地域ケア病床を設置し収入確保を図った。</p>	B		
項目		市民病院		せのお病院																																																																					
	平成24年度実績	平成29年度目標	平成24年度実績	平成29年度目標																																																																					
病床稼働率	76.6%	85.0%	72.2%	83.1%																																																																					
平均在院日数	15.5日	14.0日	17.9日	19.7日																																																																					
経常収支比率	103.4%	99.9%	94.5%	108.3%																																																																					
医療収支比率	95.3%	91.5%	82.1%	88.2%																																																																					
給与費比率	58.9%	54.0%	75.0%	70.6%																																																																					
項目	市民病院		せのお病院																																																																						
	平成24年度実績	平成26年度目標	平成24年度実績	平成26年度目標																																																																					
病床稼働率	76.6%	76.6%	72.2%	81.7%																																																																					
平均在院日数	15.5日	15.5日	17.9日	20.5日																																																																					
経常収支比率	103.4%	95.1%	94.5%	110.2%																																																																					
医療収支比率	95.3%	85.4%	82.1%	88.2%																																																																					
給与費比率	58.9%	61.9%	75.0%	71.9%																																																																					

(平成 26 年度決算での状況)

市民病院

	目標値	実績
病床稼働率	76.6%	70.4%
平均在院日数	15.5日	15.1日
経常収支比率	95.1%	100.9%
医業収支比率	85.4%	91.1%
給与比率	61.9%	61.9%

せのお病院

	目標値	実績
病床稼働率	81.7%	61.0%
平均在院日数	20.5日	17.3日
経常収支比率	110.2%	108.3%
医業収支比率	88.2%	78.3%
給与比率	71.9%	82.3%

※上記のとおり、病院単体での経常収支比率は2病院とも100%を超え、移行初年度で黒字化を達成しているが、法人本部の一般管理費(187,638,620円)が含まれていないため、2病院を含めた法人全体でみると経常収支比率は100%を超えておらず、赤字(△40,148,475円)の状況である。

法人全体 (目標値は設定していない)

	実績
経常収支比率	99.6%

【積算】★損益計算書中

経常収支比率 = (営業収益 + 営業外収益) /  
(営業費用 + 営業外費用) × 100  
9,469,330,608円 / 9,509,479,083円 ≒ 99.6%

その他業務運営に関する目標と達成するためにとるべき措置

1 新市民病院の整備

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
中期目標	<p>(1) 平成27年度の開院に向けた事業の推進 平成27年度の開院を目指して、確実に事業を進めていくこと。</p> <p>(2) 新病院の機能充実にに向けた計画的な準備 医療スタッフの採用など、新病院の機能充実に向けて計画的に準備すること。</p>				
<p>平成27年度の開院を目指して、確実に整備事業を推進する。また、本中期計画に記載されている内容の実現のために、医療スタッフの採用や業務運営体制の見直しなどについて、新市民病院の開院後に着実に実施できるよう、計画的に準備する。</p>	<p>平成27年度の開院を目指して確実に整備事業を推進するとともに、医療スタッフの採用や業務運営体制の見直しなど新市民病院の体制について計画的に準備する。</p>	<p>病院棟建築工事、空調・衛生給排水・電気、立体駐車場・ペDESTリアンデッキ・駐輪場・敷地内舗装・植栽工事について工期のとおり、工事を完了させた。</p> <p>医療スタッフの採用については、岡山大学等との連携を図ったこともあり、平成26年度の初期研修医のマッチングでは5名の採用が決定し、後期研修医においても選考の結果8名の優秀な人材の採用が決定した。看護師、医療技術員について、採用試験時には多数の応募者があったため、新卒者、経験者の中から優れた人材の確保が出来たと思われる。</p> <p>定年退職者の再雇用について積極的に見直しを行った。</p> <p>業務運営体制については、医療クラーク室やがん相談室の設置、医事課の強化等に向けて採用、配置案、ハード面等の準備を計画的に行ってきた。</p>	S		

2 医療福祉戦略への貢献

中期目標	<p>(1) 市の推進する医療福祉戦略への貢献</p> <p>新市民病院の隣接地に市が導入を検討している総合福祉の拠点となる健康・医療</p> <p>・福祉系機能や施設と協力しあうとともに、市の推進する医療福祉を核としたまちづくりへ貢献すること。</p>
------	---

中期計画	年度計画	法人による自己評価		評価委員会による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>新市民病院の隣接地に市が導入を検討している総合福祉の拠点が担う健康・医療・福祉系機能や施設と協力しあうとともに、市が推進する医療福祉を核としたまちづくり（医療福祉戦略）へ貢献できるように努める。</p>	<p>新市民病院の隣接地に市が導入を検討している総合福祉の拠点が担う健康・医療・福祉系機能や施設と協力しあうとともに、市が推進する医療福祉を核としたまちづくり（医療福祉戦略）へ貢献できるように努める。</p>	<p>岡山市が検討している総合福祉の拠点が担う健康医療福祉系機能のあり方について協議している。また、岡山市医療連携ネットのメンバーとして医療・介護の地域資源情報の共有をしている。</p>	<p><b>B</b></p>		

## 4. 項目別の状況

## 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

財務諸表及び決算報告書を参照

## 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実績
1 限度額 4,000百万円 2 想定される短期借入金の発生理由 建設工事, 医療機器等購入等による一時的な資金不足への対応	1 限度額 4,000百万円 2 想定される短期借入金の発生理由 建設工事, 医療機器等購入等による一時的な資金不足への対応	該当なし

## 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実績
なし	なし	該当なし

## 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実績
決算において剰余を生じた場合は、病院施設の整備や修繕, 医療機器の購入, 教育や人材育成の充実等に充てる。	決算において剰余を生じた場合は、病院施設の整備や修繕, 医療機器の購入, 教育や人材育成の充実等に充てる。	該当なし

地方独立行政法人岡山市立総合医療センターの業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画	実績																																							
<p>1 施設及び設備に関する計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設及び設備の内容</th> <th>予定額</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院施設、医療機器等整備</td> <td>1,072</td> <td>岡山市長期借入金等</td> </tr> <tr> <td>新病院整備事業</td> <td>12,204</td> <td>岡山市長期借入金等</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 人事に関する計画</p> <p>(1) 医療需要の動向や経営状況の変化に迅速かつ的確に対応することができるよう、組織及び職員配置の在り方を常に検証し、必要に応じて弾力的な見直しを行う。</p> <p>(2) 職員の意欲を引き出す人事制度を構築するとともに、教育・研修体制の充実等により、職員のモチベーションの維持・向上を図る。</p> <p>(3) 新病院の円滑な開院にむけ職員の計画的な採用及び育成に取り組む。</p> <p>3 中期目標の期間を超える債務負担</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>中期目標期間 償還額</th> <th>次期以降 償還額</th> <th>総債務償還額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>移行前地方債償還債務</td> <td>1,745</td> <td>4,000</td> <td>5,745</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td>1,861</td> <td>11,415</td> <td>13,276</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 積立金の処分に関する計画 なし</p>	施設及び設備の内容	予定額	財源	病院施設、医療機器等整備	1,072	岡山市長期借入金等	新病院整備事業	12,204	岡山市長期借入金等	区分	中期目標期間 償還額	次期以降 償還額	総債務償還額	移行前地方債償還債務	1,745	4,000	5,745	長期借入金	1,861	11,415	13,276	<p>1 施設及び設備に関する計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設及び設備の内容</th> <th>予定額</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院施設、医療機器等整備</td> <td>108</td> <td>岡山市長期借入金等</td> </tr> <tr> <td>新病院整備事業</td> <td>11,477</td> <td>岡山市長期借入金等</td> </tr> </tbody> </table>	施設及び設備の内容	予定額	財源	病院施設、医療機器等整備	108	岡山市長期借入金等	新病院整備事業	11,477	岡山市長期借入金等	<p>1 施設及び設備に関する計画 (単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院施設及び設備の内容</th> <th>実績額</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院施設、医療機器等整備</td> <td>512</td> <td>岡山市長期借入金、 岡山市負担金等</td> </tr> <tr> <td>新病院整備事業</td> <td>12,187</td> <td>岡山市長期借入金、 国・県補助金、一般財 源 等</td> </tr> </tbody> </table>	病院施設及び設備の内容	実績額	財源	病院施設、医療機器等整備	512	岡山市長期借入金、 岡山市負担金等	新病院整備事業	12,187	岡山市長期借入金、 国・県補助金、一般財 源 等
施設及び設備の内容	予定額	財源																																							
病院施設、医療機器等整備	1,072	岡山市長期借入金等																																							
新病院整備事業	12,204	岡山市長期借入金等																																							
区分	中期目標期間 償還額	次期以降 償還額	総債務償還額																																						
移行前地方債償還債務	1,745	4,000	5,745																																						
長期借入金	1,861	11,415	13,276																																						
施設及び設備の内容	予定額	財源																																							
病院施設、医療機器等整備	108	岡山市長期借入金等																																							
新病院整備事業	11,477	岡山市長期借入金等																																							
病院施設及び設備の内容	実績額	財源																																							
病院施設、医療機器等整備	512	岡山市長期借入金、 岡山市負担金等																																							
新病院整備事業	12,187	岡山市長期借入金、 国・県補助金、一般財 源 等																																							